

平成 1 4 年 度

自 己 点 検 ・ 評 価 報 告 書

長 崎 短 期 大 学

平成14年度 自己点検・評価報告書

目 次

沿 革	1～2
教 育 理 念	3
教職員の状況	4
学 生 数	5
食 物 科	6
保 育 学 科	7～9
英 語 科	10～12
専攻科		
食物栄養専攻	13
福祉専攻	14～15
茶 道 文 化	16
学生募集・入試課	17～18
学生課・保健室	19～34
教 務 課	35～57
就 職 課	58～62
国 際 交 流	63～64
図 書 館	65～78
事 務 局	79～88

短期大学沿革史

一 名称及び所在地

名称 長崎短期大学

所在地 〒 858-0925 長崎県佐世保市椎木町 600 番 (電話 0956-47-5566 (代))

二 沿革史

設置者	学校法人 九州文化学園
昭和 20.11.30	九州文化学院設立申請 (高女卒 2 年課程) 校舎 大黒町元海軍工廠工員宿舎
昭和 20.12.15	第 1 回九州文化学院入学式
昭和 21. 4.20	選科併設 (洋裁・英文・家政科・高女卒 1 年課程)
昭和 22. 2.28	九州女子専門学校昇格認可 (国文科・英文科・経済科)
昭和 22. 5. 5	九州文化学院廃校認可
昭和 23. 1.30	九州女子専門学校付属中学校設立認可
昭和 23. 9.11	矢岳町無番地へ学校移転
昭和 24. 4.10	旧中学校・高等女学校教員無試験検定許可
昭和 24. 8. 3	九州女子専門学校を佐世保専門学校と名称変更申請
昭和 25. 2. 2	改名許可
昭和 25.12.25	九州文化学園高等学校設置認可申請
昭和 26. 3.24	同上設置認可
昭和 26. 4. 1	佐世保専門学校を商科短大へ移行
昭和 40. 9.30	九州文化学園短期大学設置認可申請
昭和 41. 3.18	同上設置認可
昭和 41. 3.22	中学校教諭二級普通免許状 (家庭) 授与資格取得課程へ認定さる
昭和 41. 3.30	栄養士養成施設として指定を受ける
昭和 41. 4. 1	九州文化学園短期大学開設 初代学長 安部芳雄就任
昭和 41. 4. 1	食物科 (定員 80 名) 開設
昭和 41. 4.15	食物科第 1 回入学式
昭和 42. 4. 1	食物科入学定員を 100 名に変更
昭和 43. 3.15	九州文化学園短期大学食物科第 1 回卒業式
昭和 47. 3.30	九州文化学園短期大学幼児教育学科設置認可
昭和 47. 3.31	幼稚園教諭二級普通免許状授与資格取得課程へ認定さる
昭和 47. 3.31	保母養成校の指定を受ける
昭和 47. 4. 1	幼児教育学科 (定員 50 名) 開設
昭和 47. 4.15	幼児教育学科第 1 回入学式
昭和 49. 3.15	幼児教育学科第 1 回卒業式
昭和 53. 2. 6	第 2 代学長 安部直樹就任
昭和 60. 3.20	短期大学校舎新築竣工 (本館、芸術棟、ラウンジ) 5,448.67 m ²

- 昭和 60. 4. 1 長崎短期大学と名称変更
- 昭和 60. 4. 1 大学位置変更（佐世保市椎木町 600 番）
- 昭和 63.12.10 専攻科福祉専攻棟新築竣工 325.01 m^2
- 昭和 63.12.22 英語科設置認可
- 平成 元. 1.11 専攻科福祉専攻設置認可
- 平成 元. 2.20 英語科棟新築竣工 910.83 m^2
- 平成 元. 4. 1 英語科開設（定員80名）
- 平成 元. 4. 1 専攻科福祉専攻開設（定員20名）
- 平成 元. 4. 1 食物科入学定員を80名に変更
- 平成 元. 4. 8 英語科第 1 回及び幼児教育学科専攻科福祉専攻第 1 回入学式
- 平成 3. 3.15 専攻科福祉専攻第 1 回卒業式
- 平成 3. 3.26 中学校二種免許状（英語）授与資格取得課程へ認定さる
- 平成 3. 2. 9 白蝶旗（長崎短大旗）制定
- 平成 3. 3.15 英語科第 1 回卒業式
- 平成 3. 9.30 期間付（平成 4 年度～平成11年度）入学定員変更認可申請
- 平成 3.10.11 多目的ホール（体育館）及び教養棟建設着工
- 平成 3.12.20 期間付入学定員変更認可
- 平成 4. 2.28 多目的ホール（体育館）1,513.78 m^2 及び渡廊下 138.411 m 新築竣工
- 平成 4. 3.31 教養棟新築竣工 440.99 m^2 ラウンジ増設竣工 149.88 m^2
- 平成 4. 4. 1 食物科定員 130 名及び英語科 150 名へ 入学定員変更
- 平成 6.12.20 専攻科英語専攻設置認可
- 平成 7. 4. 1 専攻科英語専攻開設（定員20名 2年）
- 平成 7.12.22 専攻科食物栄養専攻認可
- 平成 8. 4. 1 専攻科食物栄養専攻開設（学位授与機構認定 定員10名 2年）
- 平成 9. 3.15 専攻科英語専攻第 1 回卒業式
- 平成 10. 3.14 専攻科食物栄養専攻第 1 回卒業式
- 平成 12. 3.31 長崎短期大学専攻科 英語専攻廃止
- 平成 12. 4. 1 長崎短期大学食物科入学定員を120名に、英語科入学定員を100名に変更
- 平成 12. 4. 1 長崎短期大学幼児教育学科を保育学科に名称変更
- 平成 12. 4. 1 長崎短期大学保育学科入学定員を80名に変更
- 平成 14. 4. 1 男女共学制とし、食物科を製菓衛生師・調理師養成課程へ変更
入学定員を40名（製菓コース10名・調理コース30名）に変更
- 平成 15. 4. 1 長崎短期大学食物科入学定員を70名（製菓コース40名・調理コース30名）に変更
長崎短期大学英語科入学定員を70名に変更
長崎短期大学専攻科食物栄養専攻学生募集停止

平成14年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	教育理念 1 建学理念・目的の点検、見直し
<p>現状</p> <p>本学の建学精神は</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 高い知性と豊かな教養を持つこと。(2) たくましい意志と健康な体を養うこと。(3) 日本人の誇るべき徳性と品格の香り高さを身につけること。 <p>昭和41より発足した長崎短期大学は、教育方針として</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 成熟化社会の中での、人としての自律と敬愛を高める。(2) 伝統的日本の文化・礼節を学び、和敬静寂の心で徳を修める。(3) 新しい時代に向かっての国際性を養い、国際交流を通してのグローバルな視点を養う。(4) 社会の変革の中で求められる、専門的職業人としての実学と教養を修める。 <p>この建学の精神、教育方針を実現するために、</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 茶道精神による生活の実践化(2) 師弟同行による大学生活の充実（教師と学生がつくりあげる大学生活）(3) 卒業後の目的を明確化する専門教育（資格付与等）(4) 地域社会に貢献する大学（各種行事への参加） <p>等の具体的方策を実施している。</p> <p>改善策</p> <p>この目的の点検・見直しについては朝の職員会議、事務局会議、週1回（月曜日）の部門長会議、週1回の各学科長会議等について行われている。</p> <p>このような建学の精神、教育方針は不易であつても、実際の教育的指導・研究姿勢にあつては、日々変貌するものであるから、具体的実践にあつては各部門別課によって更に話し合い、理解の合意作りを確実にする必要がある。</p>	

教職員構成

平成14年度教職員配置（平成14年5月1日現在）

職名 学科 性別	教授		助教授		講師		助手		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
食物科	5	1	1	1		4		1	6	7
保育学科	3	2	1	1	1	3		2	5	8
英語科	2		2		1	2			5	2
一般教育	3		1		1	2		1	5	3
合計	13	3	5	2	3	11		4	21	20

	男	女	合計
教員計	21	20	41
職員計	9	6	15
教職員計	30	26	56

長崎短期大学学生数

1 平成14年度在学学生数 (5/1 学年・学科)

学年\学科	食物科	保育学科	英語科	福祉専攻	食物栄養専攻	合計
本科 1 学年	15	110	68			193
本科 2 学年	82	105	73			260
専攻科 1 学年				6	14	20
専攻科 2 学年				—	11	11
計	97	215	141	6	25	484

2 平成14年度出身地域別学生数

学年	1 年				2 年				合計			
	食物	保育	英語	計	食物	保育	英語	計	食物	保育	英語	計
長崎県内	9	83	22	114	50	89	22	161	59	172	44	275
県外九州内	5	27	15	47	32	16	30	78	37	43	45	125
県外九州外			1	1			1	1			2	2
海外	1		30	31			20	20	1		50	51
計	15	110	68	193	82	105	73	260	97	215	141	453

地域\学科	福祉専攻	食物栄養攻	専攻科計	合計
長崎県内	5	13	18	293
県外九州内	1	12	13	138
県外九州外				2
海外				51
計	6	25	31	484

3 学生数の推移 (過去5年間/学科別)

年度\学科	食物科	保育学科	英語科	福祉専攻	英語専攻	食物栄養専攻	合計
平成10年度	82	63	60	21	2	7	235
平成11年度	80	67	85	20	—	12	264
平成12年度	73	73	68	14	—	10	238
平成13年度	87	110	85	13	—	12	307
平成14年度	15	110	68	6	—	14	213

平成14年度自己点検・評価報告書

自己点検
評価項目

食物科
教育指導

1 就職・進学について

【評価】

本年度、食物科では最後の栄養士養成を行った。専攻科進学希望者が多く、3回の入試を経て16名が進学。また、教職免許取得のため、1名がくらしき作陽大学へ編入する。

就職に関しては出足が鈍く心配したが、卒業を前に例年以上の学生が内定している。未就職の学生には、それぞれ問題があるので、卒業後も指導を続けていく。

2 学外実習について

【評価】

最後の栄養士実習は問題もなく無事修了し、新たに調理師実習が始まった。調理師実習はこれまでの栄養士実習における手続きを基本に準備をし、2月24日から2週間、営業店での実習を行った。今回は6名の学生が実習を行ったが、各施設から「この時期はあまり忙しくないのだからじっくり指導ができる」という実習時期として適切とのコメントをいただいた。

学生もはりきって頑張り評判も上々であった。

調理コースの学生数増加に伴い、実習先の開拓が必要となる。

3 公開講座について

【評価】

第5回を迎えた管理栄養士国家試験対策講座は1月より10回開講。3月20日に終了する。受講者は約50名で例年と差はないが、卒業生や専攻科学生・専攻科入学予定者といった本学出身者や在学生の割合が年々増えている。栄養士養成が終了し、3年後からは新カリキュラムでの試験が始まるので、本講座を国際大学に委ねたいと考えていたが、国際大学では授業の空きコマでの講座を予定されており、卒業生の受験は難しい状態である。

卒業生・在校生を対象に放課後、短期大学で開講するなどの方法をとることも考えられる。

ただし、新カリキュラムへの対応は難しく、開講も残すところ2年が限度と思われる。

これにかわり、調理・製菓コースで行う地域貢献を思案中。

4 学生の質について

【評価】

1年生は少人数であるため、見なくていい所まで見えてしまい、口をはさみすぎたきらいもある。数名のムードメーカーが存在し、リードしてくれている。男子1名も女子とまあまあ上手く付き合っていた。

2年生は基礎学力のなさもさることながら、教科書はロッカーに入れっぱなしで家での学習など想像できない状態。

5 カリキュラムについて

【評価】

平成15年度までは、養成施設としての申請用のカリキュラムに沿ったものであるが、16年度からは本学食物科としての特徴をもったカリキュラム（特に実技充実）への変更を検討する。

製菓コースについては、来年3月に初の製菓衛生師の資格試験があるので、合格率100%を目指しての対策を加えたものになる。

6 行事について

【評価】

本年度の佐世保祭りでは保育学科との合同参加で盛り上がった。

来年度は1年生14名、2年生45名程度で、食物科は総勢60名程度。

相浦くんち（10月17日）の神輿参加は単科では無理である。長崎短期大学としての参加を考えていただきたい。佐世保祭りがどうなるか不明であるが、参加の場合は相浦くんちと同様に考えていただきたい。

平成14年度自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	保育学科 教育指導
1 授業履修状況・資格免許取得について	
【評価】	
<p>(1) 2年生105名在籍者全員卒業および資格免許の必修単位を落した者が8科目15名(延べ20科目 5人2科目)と大量に卒業認定試験の受験者がいた。幸い全員合格したのものの中には卒業に必要な62単位ぎりぎりの者も数名おり、本年度は、特に、生活指導も含め要指導学生が多かった。</p> <p>(2) 卒業生105名中、保育士資格を100名、幼稚園教諭免許を99名が取得した。したがって、保育士・幼稚園ともに取得できなかった者5名、保育士のみ取得1名と、例年になく大量の未取得者が出た。当該学生は卒業認定試験受験者に多く、資格免許取得に向けての指導を繰り返したが必要な単位を落としたり、実習先での意欲態度の問題で途中断念したり、最初から取得をあきらめる等の理由で取得することができなかった。保育者に向かって本学に修学しながらも結果的には資格免許を取得出来ずに卒業する学生が増えた。</p> <p>(3) 1年生は109名在籍(入学当初110名)で、卒業や資格免許に必要な科目単位等を落した者が5名(内訳 後期試験全て未受験1名4科目1名1科目3名)ですべて未受験の1名は留年、再履修4名(延べ5科目/1名2科目)卒業認定試験1名2科目となっている。</p> <p>1年生は2年生に比べれば授業出席も比較的良好で、単位を落とす学生は少なくなっているが、意欲や学力不足の学生も多数おり、理解を促す授業体制や継続した個別対応が求められる。また、1年次で単位を落とすと2年次ではさらに科目も多くなり、コマ配置等で履修が困難になっている。</p>	
2 クラス運営について	
【評価】	
<p>(1) 2年生は、入学当初110名在籍していたが、1年次に経済的理由や修学意欲喪失で4名退学、同様な理由で2名除籍、一方、前年度長期休学者の1名復学し、2年生当初には105名となり、全員卒業となった。</p> <p>(2) 1年生は、当初110名が入学、経済的理由で9月に1名退学、さらに、進路変更により3月末に1名退学(10月～長期休学中)で加えて、後期試験全科目未受験の1名が学習意欲面で退学の意向を示しており指導中である。</p> <p>(3) 1・2年生とも学生数の増加に加えて、学生間も個々集団としてはまとまりがあるもの、リーダーシップのとれる学生が少なく、全体的行動面では一体感に欠けるなどが近年の学生の特徴で、その把握や指導面では難しい面を抱えている。</p>	
3 施設整備及び教育環境の整備について	
【評価】	
<p>(1) 懸案であった男女更衣室が整備され、教室部分とのけじめがついたと同時に、教室がきれいになり、その分快適な教室環境が整った。</p> <p>(2) 男子更衣室では、現在日常生活部分として活用しており、その利用方法については男子学生が今後増加してくるため運用を考えていく必要がある。</p> <p>学生の増加により音楽の個別指導に伴うピアノの台数が不足している現状にある。</p>	
4 男女共学について	
【評価】	
<p>(1) 本年度から男女共学となり、1学年に13名の男子が在籍している。入学当初は女子学生との距離感があったが、同じく保育者を志すものとして共通なものを有しており、時間の経過の中ではお互いに長所を認め、現在は良好な状態にある。特に、体育・音楽等技能系科目で男女合同授業に多少の不安も懸念されたが授業回数を重ねるごとに自然にまとまっている。男子学生は音楽では苦勞しながらもよく努力している。</p> <p>また、一部に男女の個人的な親密者もおり付き合い方などに注意を払っている。</p>	

5 授業態度について

【評価】

- (1) 本年初めて1・2年ともに100名を越える学生数となり、1コマ制の全体授業では、特に、後方の席にいる学生などの集中力に欠ける環境となっている。教員側の手応えも今一步で授業がやりにくい感じである。特に、非常勤の教員には全体授業が多く組まれており、授業態度も良くないなどで迷惑をかけている場面が多いようである。
- (2) 学生間の学力や意欲なども大きな差がでており、真面目に取り組む学生とそうでない学生がいる。特に、後者の学生は（主に2年生）授業内容もどの程度理解しているのか、あるいは理解しようとしているのか、学習（修学）姿勢を疑いたくなる学生も増加している。これらの学生を中心に授業中に私語が多いと教員側から注意を受けている。試験においても取りあえず教員の指摘した箇所を覚える程度の学生も実在しており、意欲の高い学生との格差も大きい。
- (3) 2年生で、欠席が多い学生を中心に授業態度や生活面、意欲面で問題を残す学生が真面目な学生に迷惑（ゼミ等）をかける場面も多く、学生の間でも批判の声があった。
- (4) 1年生は2年生に比べれば授業態度も良く欠席者も少なかった。その一因として、男女共学となり、女子学生に男子学生が注意する場面が多く、その影響も大きかったように思われる。

6 学内外の実習（保育所、幼稚園、施設）について

【評価】

- (1) 1年生の11～12月にかけて付属幼稚園での実習（1人5日間）では、授業と平行して行っているが、特に、本年度からの学生数増加に伴い、幼稚園側に多大の負担をかけている。しかし、この実習は本学特徴的なもので、その後の学外実習において学生達は心構等を養う良い機会となっており、是非とも必要な実習で、本学担当教員との連携の中で効果的な実習に向けてさらに意識づけを強化していきたい。
- (2) 2年生の幼稚園（15日間）保育所（20日間）の実習では、全体的にはおおむね高い評価を受けていたものの、数人が実習中の意欲態度や勝手な行動などで実習先に多大の迷惑をかけそれらの学生の個別対応に苦慮した。
- (3) 1年生は現在2～3月に10日間の施設実習を、県内外の8種類23施設で行っている。それぞれに目的・機能の異なる施設で戸惑いながらも興味を持って行っているようで、全体的には意欲的に取り組んでおり、大きな問題もなく、おおむね良好に実習を行っている。

7 行事や部活動について

【評価】

- (1) 音楽と動きの夕べ
学生と指導教員が一丸となった努力で本年度も内容的に充実し盛大に開催することができた。来場の方々にも大きい感動を与え、卒業生も遠くからも多数駆けつけ後輩の激励と母校愛も一層深まったことと思う。この行事では、指導教員の熱心な努力のもとで学生達も企画から練習発表まで一連の努力の中で多くのものを学んだものと思われる。
- (2) 3クラブ（マーチング・オペレッタ・ダンス）
本年度も、佐世保祭り、佐世保保育祭り、市制100周年関連等、多くの行事に参加して、地域社会への貢献と同時に学生にも大きな自信と励みになったものと思われる。
本年度の佐世保祭りでは、マーチングの参加と同時に、食物科と合同で参加した「白蝶みこし」に、幸い1年生のみではあったが、クラブに属していない学生に参加の学生に参加の機会が与えられ、学科間交流促進面でも良い経験となった。
「よさこいさせば祭り」では、ダンス部が初めて系列大学と合同で法人内の単独参加となり、これも学内を越えての交流経験で良い体験となった。
- (3) のびのび幼児画展
地域の保育施設である保育所・幼稚園との連携を含め学園際の一連行事として行っており、すっかり定着している。本年度は過去最高の出展数となった。

8 就職・進学状況について

【評価】

- (1) 本年度は100名をこす学生を抱え、また、厳しい就職情勢も反映して、進学状況が例

- 年に比べて厳しい状況となっている。就職課と協力してその促進を図っているものの、現時点で就職が決定していない学生が17名と多い。
- (2) 就職に積極的な学生とそうでない学生がおり、その意識の格差は大きい。前者の学生については比較的早く決定しているのに比べ、後者は就職意欲も疑わしい者も多い。本年度は二月中旬に就職課と合同で未就職者に対して激励の集会を実施した。これらの者は一般的に就職に対する緊迫感に欠けているようである。保育関係の職場では、一体に成績優秀で明るい人当たりのよい者、積極的な者を求めており、未決定者にはそれらを踏まえて協力的な働きかけを継続中である。
 - (3) 進学については、福祉専攻科に14名、長崎国際大学に2名、福岡教育大学言語障害教員養成課程(1年)に2名、計18名が決定している。

1 来年度の課題

授業課程・授業体制について

- (1) 本年度から保育士養成課程が変更されている。主な変更ポイントは福祉系・養護系科目の強化と弾力的で特色のある養成科目の編成で、具体的科目として、家庭援助論の新設必修化、社会福祉援助技術系科目等の教授内容の明確化と必修化である。今日、保育士による子育て家庭支援や援助技術面の向上が求められており、これらにスライドした科目や教授内容の充実と柔軟性のある養成が求められている。実質的に、これらの科目は本学では2年生を対象に時間割を組んでおり、来年度からの対応となる。教員の強化もあり、これらの科目を中心に一部全体1コマ制から2コマ制を取り入れた授業体制づくりを図るようにしている。しかし、主に非常勤教員に係わる科目について1コマ制が多く、今後の課題である。それらの授業体制づくりについては、常勤職員のサポート体制等も検討して行きたい。

2 学生指導について

- (1) 2学年生進級者は109名で、来年度も97名の学生の入学が予定されている。本年度の反省を踏まえ、真面目な学生の意欲を損なうことがない体制づくりと併せ、意欲・態度の悪い学生や不適応学生には個別的・小集団的指導を継続して行うことが必要であろう。できるだけきめの細かい学生指導の方法について、学科内で協議模索し、これらの体制づくりと2年生進級当初に取得単位を個人的に確認させるなどのチェック機能を一層考える必要性を痛感している。

3 就職進路指導について

- (1) 昨年度までは60～70名の卒業生であったこともあり、高い就職率を維持してきた。しかし、近年の厳しい経済情勢と100名を越す学生の進路については、早いうちから学生への意識づけと職場開拓などが是非必要である。特に、就職課と協力して教員側も本腰を入れて取り組む必要がある。最近では就職意欲の低下した学生が目立ち、試験すら受けない学生も見受けられる。結果的にはこのような学生が未就職者となっている傾向があり、強力な支援体制の必要性がある。
- (2) 2年生に進級した13名の男子学生の進路先について、現実的には男性保育者の職場(一部は福祉専攻科等の進学希望)としては未開拓の部分が多く厳しい現状にあり、その開拓が来年度の大きな課題となる。

4 各教員の授業方法の改善に向けた取組について

- (1) 取り組み内容報告 - 文書発表
- (2) 公開授業の実施 - 自己評価・学生評価・同僚評価

5 その他

- (1) 本年度は、学生の車による事故が多かったので、学生指導面で交通事故防止の指導もしっかりと行うことが必要である。

平成 14 年度自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	英語科 教育指導
1	<p>1 学科経営と経営努力 【評価】 (1) ペースからのクレームやアメリカでのテロ事件に伴って、「国内ホームステイ」や「メリカンスクールとの茶道交流」などペース関連の活動ができなくなっていたが、国内で基地弁護士からクレームがついて実施できなくなった。さらに9月11日の米テロ事ホームステイに関しては5日間を1日だけのホームビジットに変えて実施することができた。期間は短かったが学生には好評だった。今後1年次1回、2年次1回と在学中に2回経験できるようにしていく予定である。メリカンスクールとの茶道文化交流怪も今年度は実施することができ、学校長のコーネリー先生にも参加してもらえ有意義な交流会にすることができた。</p> <p>【目標】 (1) 基地依存型のプログラムを大幅に変更し、新たな授業外活動を導入する予定である。幸い、来年度は入学者数を増やすことができたので、今後も学科内容をさらに魅力あるものにし、学生募集に努力したい。 (2) 15年度に入学する留学生は中級と上級レベル者となっており、比較的高いと予想されるので、それらの学生が満足できるカリキュラムになるよう内容をさらに見直していきたい。</p> <p>2 英語科の教育目標 【評価】 (1) 英語科では、全ての学生に最低でも日常生活で必要となるレベルの英語を身につけさせ、英語でコミュニケーションがある程度までできるようにすることを第一の目標にしている。同時に、学生の卒業後の進路を考慮に入れ、観光・サービス関連の授業やインターシップを正規のカリキュラムにとり入れ、卒業後即戦力になる人材の育成を教育目標にしている。おおむね、今年度はこの二つの目標を達成できた。</p> <p>3 教育目標達成のための教育課程の編成（開設科目及び時間配当の特徴） 【評価】 (1) 英語に関しては、外国人講師により月曜日から金曜日まで毎日、小人数制、レベル別の集中英語クラスを設けているが、平成15年度よりすべての外国人講師（5名）が半期中ですべてのレベルの学生に授業を行うように設定し、学生が多様な英語に慣れ、多くの外国人とコミュニケーションをとれるように編成している。又、ローテーションごとに講師に対する授業評価を行い、質の高い授業を維持していきたいと考えている。 (2) 留学生は、なるべくスムーズに英語科の授業を受けられるように1年次は日本語の授業を中心に受講し、2年次になってから一般の科目が受講できるようにした。 (3) オーストラリアに1年後期に留学するために、後期に開講されていた教職科目が受講できなく教員免許が在籍期間中に取得できない状態だったが、カリキュラムを組なおし取得が可能となった。 (4) 1回目のオーストラリア留学も無事に終わることができた。留学した学生は全員、充実した留学を送ることができたことを報告しており、英語プログラムとしてそれなりの効果がでたように思われる。さらに、内容の見直し改良を加え充実した内容にしていきたい。 (5) 短期海外研修は、オーストラリア半期留学の導入もあってアメリカのみの6名となった。長期と短期それぞれ計画できたので、学生のニーズに合わせることもできたと思う特に、料金面でも2週間で約25万円程度で実施することができ学生の選択肢が増えたので良かった。今年度のアメリカ・イラク戦争の影響で来年度に延期することにした。</p>

【目標】

- (1) 姉妹校同士を結んだグローバル・カレッジ・ネットワークから交換留学生在が今後定期的に英語科に来る可能性がある。この際、来る学生の日本語のレベルがまちまちなので初級レベルの学生に対処を考える必要がでてきている。特に漢字圏以外からの学生について考慮しなくてはならない。
- (2) 専門科目として子供に英語を教える「児童英語教授法」や、昨年度から開始した外国人に日本語を教える「日本語教育入門」も学生に好評で、オーストラリアに留学した学生は現地小学校で日本人教師補助的な活動もできた。さらに、研修面での充実をはかりたい。
- (3) 学生に学習目標を持たせるのと同時に学生の英語力の変化を調べるために1年次に3回(5月・8月・2月)統一のアチーブメントテスト(英検協会)実施した。ほとんどの学生が英語の得点を上げることができた。さらに2年時にも継続してテストを実施し、英語力の段階的レベルアップをはかり、学力の低い学生に対しては学力をつけさせたい。
- (4) 希望者に対しては、例年どおり、「英検・TOEIC」、「TOEFL(留学生)」の課外講座を実施し、資格の取得を通して英語力の向上をはかりたい。
- (5) 14年度はなるべくベースに依存しないプログラムということで幾つかの新しいプログラムを実施した。15年度も2年生も参加できるものを含めてさらにいくつかのプログラム追加し、学生の英語学習への動機付けを与えるようにしたい。
- (6) 学生のマナー向上や就職対策を目的として、新たに実務(演習)系の授業として専門学校から講師を招き「ビジネスマナー」のクラスを開講する。この授業では、挨拶の仕方、公共でのマナー、来客対応などを演習形式で講義してもらう。人数の制限もあり、1年次前期に実施する予定である。
- (7) 15年度は新たな「セルフアクセス」の時間を設け、各自が空いたコンピュータ室でインターネットを使用しいつでも英語学習ができるプログラムを提供する。むことができる
- (8) 15年度も引き続き、留学生用カリキュラムを系統的に整備し、関係教員が組織的に指導する体制をつくっていききたい。

4 授業態度と努力事項

【評価】

- (1) 各教員が自分の授業評価に基づき、授業の改善に努力している。

5 学生指導

【評価】

- (1) 14年度も、心身的にも悩みを抱え指導が難しい学生が数名いたが、それぞれのケース(学生)に適切に対応するために、専門の教員と協力し、学生対応に努力した。

6 学科行事

【評価】

- (1) 第7回の市民公開講座「オモシロ国際学」を実施し、好評で、受講者からの期待も大きい。長崎短大の広報にも大きく役に立つと考えられるので引き続き、15年度も計画中有である。
- (2) 学園祭では英語科は、英語、日本語スピーチコンテスト、英語科プレゼンテーション、留学生のアジランレストランを実施した。盛況だった。今年度は、第1回のオーストラリア留学を実施したので、英語科プレゼンテーションの1つとして紹介したい。
- (3) 佐世保祭りに関して、例年行っている英語科の「コスチュームパレード」も、再検討が必要な時期となっている。1年生は殆どの学生が参加するが、2年生になるとアルバイト等を優先して、強制しても参加人数が少なく、それでクラスの雰囲気が悪くなるような傾向も見られる。

7 学外実習

【評価】

- (1) ハウステンボスインターンシップは、今年度は11名が参加した。受入れ先での学生の評判も非常によく、参加した学生の多くが自信を持つようになり、就職活動への大きな動機づけとなっている。しかし、一部の学生に対しての現場担当者から厳しいコメント

あげられていたので、今後、実習前に面接したり、事前説明をなるべく問題がないようにしたい。なお、実習者受入れ条件が平成15年度は多少変わる予定である。

8 資格取得と就職・進学

【評価】

- (1) 14年度は、語学系、ビジネス系の検定をいくつか導入し受験させたが、引き続き来年度も受験の指導をしていきたい。
- (2) コンピュータ関連では、「ワープロ検定」に加えて、今年度は表計算エクセルの検定である「コンピューター利用技術検定」も夏季集中講義として新たに設け、資格を取れるように指導したが、今後その検定自体がなくなるということで、15年度は「パソコン検定」の取得を目指してコンピュータの授業を1年前期・後期に集中して行うようにカリキュラムを編成した。
- (3) 就職・進学指導も就職課と協力して、例年通り行うことができ、現在9割近くの学生秘決定しており就職率は良い。しかし、学生の中には就職先を紹介しても真剣に就職活に取り組まない者も少なくなく、対応に苦慮する場合がある。

平成14年度自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	専攻科 食物栄養専攻 教育指導
1 学科経営と経営努力	【評価】
平成14年度は1年生14名、2年生11名でスタートした。1年生の内訳は本学短大出身者12名、他短大出身者2名、2年生は本学短大出身者10名、他短大出身者1名である。1、2年生とも定員を充足でき、次年度も16名の新入生を迎えることは喜ばしいことであるが、学外実習先の確保（特に公衆栄養実習）や特別研究の振り分けの面で困難が予想され、今後の課題である。	
2 栄養学士取得について	【評価】
今年度は11名の学生が取得に向けて学位授与機構に申請したが、残念ながら9名合格2名不合格であった。不合格の理由については通知待ちであるが、昨年より1ヶ月合否の結果が早くなったおかげで次回受験のための準備に余裕がもてるようになった。	
3 管理栄養士国家試験について	【評価】
昨年9月19日に実施された第16回管理栄養士国家試験は22,114名のうち、合格者4621名（合格率20.9%）で、本学の第5期生は10名中3名の合格だった。今年度修了した第6期生は今年5月18日に受験予定である。昨年度の学生より試験に大しての勉強の意欲が感じられ、試験においても少し手応えが感じられるので、より高い合格率が期待されるところである。	
4 その他	【評価】
今年度も佐世保市立総合病院より糖尿病展における協力要請があり、ボランティアとして参加した。学生にとっても患者さんと接することができる良い機会であり、次年度も協力していきたいと思っている。 就職については専攻科の場合、国家試験受験後に考えているという流れがあり、第6期生においても現段階ではあまり活動しておらず、国家試験の合否がわかる6月以降からの就職活動となるので、就職課の協力を仰ぎケアをしていかなければならない。昨年は第5期生の1人が佐世保市職員の試験に合格する快挙をとげ、今年4月より栄養士として勤務することになっている。内部高校から進学し、本学短大及び専攻科と進み、管理栄養士の国家試験にも合格しており、内部高校生の励みにもなると思われる。	
5 課題	長崎国際大学の健康管理部がスタートしたことに伴い、専攻科に非常勤できていただいている先生が、長崎国際大学でも講義するというケースが出てきている。時間割りを作成するにあたり、長崎国際大学の教務課との協議が必要である。

平成14年度自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	専攻科 福祉専攻 教育指導
<p>1 クラス運営 【評価】 平成14年度は、少数で入学生6名（内社会人入学1名）でスタートした。途中クラスアドバイザーが退職し長崎国際大学より教員の補充がなされた。福祉の専門教科の授業については長崎国際大学より3名の講師の派遣を得ることができた。 クラス全体としては、良きリーダーがいないこともあったが消極的で学力、学習態度に際しても多くの時間を個別指導に要した。</p> <p>2 教育努力目標 【評価】 介護福祉士の基礎教育の視点から「よりよい人間関係の維持」のために最も基本的な介護者としての姿勢・態度・倫理観・責任感の習得形成を目指し生活指導・実習指導員を通して個別指導にあたった。 1年間ではあるが殆どの学生は成長した面が感じられる。一部の学生について教員間のより以上の情報交換によって適切な時期に個別指導が必要であった。</p> <p>3 教科・学生指導 【評価】 定期試験においては、再試・再々試・レポート提出の学生が例年より多かった。 例年、学年末に日本介護福祉養成施設協会主催の卒業時共通試験が実施され学力、資質は全国レベルで評価される。今年度は全国的に中以下のレベルに等しい。対策として出題の問題を担当教員に提示し学力の充実を図りたい。 昨秋、介護福祉士九州ブロック研修会がハウステンボス、長崎国際大学で開催され学生は2巻昇降した。介護福祉士としての社会的役割、介護を困難にしている環境要因などについて学内では学べない卒業教育の足がかりを見出した。</p> <p>4 施設実習 【評価】 1施設1名の配置で実習指導を行った。2名の学生は実習態度（遅刻・欠席・服装姿勢・態度）が不慮につき再実習となった。2名で延べ22日間の実習を行い卒業直前に合格となる。1施設1名の配置は実習の効果から今後は検討を要する。</p> <p>5 資格と就職 【評価】 介護福祉士の全課程を修了と同時に6名の登録申請を厚生労働省に提出する。 就職活動については、就職課の連携と指導を受けてきたか、一部の学生にはケースレポート、ゼミ活動に精一杯で就職活動までの余裕がなかった。現在、介護老人福祉施設に1名、介護老人保健施設1名、障害児施設1名、未定が3名で就職率は低い。</p> <p>6 来年度の課題 (1) 来年度は社会人2名を含む15～16名の入学予定でクラス運営にも有効面が多いと期待している。 (2) 生活指導、特に遅刻・欠席の多い学生については早期に面接指導を行い、今日印鑑で銃砲交換しながら統一した見解で対応していく。 (3) 介護福祉士としての基礎学力の強化のために、共通卒業試験、結果を分析しながらシラバスを再検討する。 (4) 就職については、来年度、長崎国際大学の卒業生と福祉施設の就職が競合することから、就職課の協力を得て早期に就職活動に取り組みたい。</p>	

7 募集について

【評価】

本年度は調理・製菓コースとも指定校募集定員20名に対し、製菓で16名、調理では内部入学者を含めて14名であった。まずは、指定校入試で募集定員を満たすこと。これが最終的に定員をみたすかどうかの鍵であるように思われる。指定高校と指定人数を見直すことが必要である。

また、転科合格者が全体で7名おり、入学後に目的意識をもたせるための指導を必要とする。

平成14年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	茶道文化 教育指導
1 国際交流との連携	<p>【評価】 (1) 年々茶道を通しての国際交流が増えているが、内容のきめ細かい打合せが必要であり、事前連絡を含め国際交流との密なる連携手段を考慮していかなければならない。</p>
2 留学生の対応	<p>【評価】 (1) 多くの留学生を迎え授業をおこなっているが、1年後は特に日本語能力がまだ低いため、言葉の壁を抱えながらの授業である。また、風習の違いにより馴染めない面も身請けられる。これからも英語科との密なる連携がさらに必要である。</p>
3 教職員の意識づけ	<p>【評価】 (1) 茶道文化茶道文化教職員が携わっているため、さらに建学精神の意識づけを行うとともに理解を求める努力をしていく。</p>
4 長崎国際大学との連帯	<p>【評価】 (1) 長崎国際大学が開学して3年が経ち、茶道文化を通しての交流も多々見られた。今後さらに増えると思われるので、教職員の協力態勢を整えなければならない</p>
5 茶道大会	<p>【評価】 (1) 茶道文化講義2年間集大成ともいえる茶道大会が26回目を迎え、更に多くのお客様にきていただき盛大になった。 (2) 男子学生も入学してきたこともあり、次年度の運営をどのように進めていくか早期に計画を立てなければならない。</p>
6 英語科オーストラリア留学に伴う対応について	<p>【評価】 (1) 今年度、初めてオーストラリアへの留学が実施され、事前の事前の点指導そして帰国後の補講という形で対応した。今回、留学した学生は熱心に茶道文化に組み込み事前指導も補講もスムーズに行うことができた。 (2) 指導に関しては、茶道文化だけで対応できない面もあるので、今後も英語科との連携を進めていきたい。</p>

自己点検評価項目	学生募集 平成15年度入試結果と今後の学生募集																																
<p>【現状】</p> <p>1. 入試結果</p> <p>(1) 入学定員 220名 [食物科 70名・保育学科 80名・英語科 70名] 注) 前年比 食物科 40→70、英語科 100→70へ定員振替</p> <p>(2) 入学者数 215名 [食物科 44名・保育学科 96名・英語科 75名]</p> <p>(3) 定員充足率 98% [食物科 63%・保育学科 120%・英語科 107%]</p> <p>(4) 前年対比 +22名 [食物科 +29名・保育学科 ▲14名・英語科 +7名]</p> <p>2. 入学者分析</p> <p>(1) 高校所在地別入学者上位3県とその比率/県別入学者前年対比</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成15年度 (全体比率)</th> <th colspan="2">平成14年度 (全体比率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>長崎県 130名/60%</td> <td>1位</td> <td>長崎県 110名/57%</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>熊本県 19名/9%</td> <td>2位</td> <td>熊本県 23名/12%</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>鹿児島県 10名/10%</td> <td>3位</td> <td>福岡県 8名/4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 入試形態別入学者/推薦入試・一般入試シェア ■推薦入試 168名:78% ■一般入試 47名:22%</p> <p>(3) 社会人入学者/前年対比</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">平成15年度</th> <th colspan="2">平成14年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食物科</td> <td>0名</td> <td>食物科</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>保育学科</td> <td>5名</td> <td>保育学科</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>英語科</td> <td>1名</td> <td>英語科</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 総評</p> <p>少子化、高学歴化ならびに長引く経済不況の時代にあって、前年度を上回る入学者を確保出来たことは、評価に値する。</p> <p>今年度の課題として、保育学科の定員超過率の是正、そして食物科の定員割の是正があった。前者については、指定校推薦枠の大幅な削減によっていくらかは解消した。後者については、今年は早い段階から募集広報活動することができたことにより、入学者は約30名増加した。しかし依然として、定員割している現状にあり、3年目の来年度は食物科の調理コース・製菓コースを認知してもらい定員充足を実現したい。</p> <p>高校生の進路が多様化する中、そのニーズを把握し、教育内容の充実を図ることによって、学生募集に反映させたい。</p> <p>【改善策】</p> <p>1. 保育学科の定員超過是正に引き続き留意し、入学試験区分毎の定員通りの選抜が行われるように工夫したい。</p> <p>2. 3年目を迎える食物科調理コース・製菓コースにおいて、その希少性と厚生労働省認可の資格付与という点をアピールしたい。</p> <p>3. 男女共学もあわせて3年となり、保育士、調理師を目指す男子生徒へ引き続き</p>		平成15年度 (全体比率)		平成14年度 (全体比率)		1位	長崎県 130名/60%	1位	長崎県 110名/57%	2位	熊本県 19名/9%	2位	熊本県 23名/12%	3位	鹿児島県 10名/10%	3位	福岡県 8名/4%	平成15年度		平成14年度		食物科	0名	食物科	0名	保育学科	5名	保育学科	4名	英語科	1名	英語科	1名
平成15年度 (全体比率)		平成14年度 (全体比率)																															
1位	長崎県 130名/60%	1位	長崎県 110名/57%																														
2位	熊本県 19名/9%	2位	熊本県 23名/12%																														
3位	鹿児島県 10名/10%	3位	福岡県 8名/4%																														
平成15年度		平成14年度																															
食物科	0名	食物科	0名																														
保育学科	5名	保育学科	4名																														
英語科	1名	英語科	1名																														

自己点検評価項目	学生募集 平成 15 年度入試結果と今後の学生募集
<p>広報したい。</p> <p>4. 歴史ある短期大学が次々に四年制大学へ改組される中、短期大学の将来を考えると、短期の高等教育機関として、就職指導の徹底、大学への3年次編入、さらには海外留学と2年間の限られた時間で、また限られた時間だからこそ出来る教育を行っていきたい。そのために、常に入学者の声に耳を傾け、カリキュラム等へ反映させる必要がある。</p> <p>5 高等学校の総合学科が増え、生徒の興味、関心が多様化する中、各種進学説明会に参加し、短期大学の教育内容、就職展開を知らせていく必要がある。また、高等学校の要請に応じ、各分野専門の講師が高等学校へ出向いて出張講義を行うことにより、高校生のその分野の学問、職種に関する関心をさらに高めたい。</p> <p>6. オープンキャンパスについては、入学者になるであろう高校生、またその先生方、保護者、一般社会人にも広くキャンパスを開放し、短期大学を深く理解してもらうべく、開催時期、開催内容を検討したい。</p>	

平成 14 年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教育活動の状況と指導・育成 2. 課外活動の状況と指導・育成
<p>◎現状</p> <p>現在課外活動を行っているのは以下のクラブ・部等である。 ダンス部（野田先生顧問） オペレッタ部（原先生顧問） マーチング部（橋本先生顧問） 茶道部（嶋内先生顧問） 白蝶祭実行委員会（中野・中尾顧問）</p> <p>保育学科の中心をなす 3 クラブについては、学生数の増加により、それに参加しない学生も増えている。しかし、毎年秋に行われる「音楽と動きの夕べ」のコンサートに向けて年間を通じた指導や内容の高さについては評価が高く、保育学科も教育活動の集大成として定着している。年々観客も増え、それに平行して中身の充実がはかられているが日ごろの教育活動のたまものであるといえる。</p> <p>茶道部も、研究クラブを中心として、学園祭（含む、国際大学との交流）やその他の行事、国際交流において多彩な活躍をしており、本学の教育理念を着実に継承していく力となっている。</p> <p>同時期に行われる佐世保まつりについても、ダンスバトルが中心となる様相を見せているが、食物科「白蝶みこし」や英語科「仮装パレード」については、今回が最後になると思われる。今後のあり方については、学科を問わない形でダンス部の協力を得ながらダンスバトルへの出場というのが自然の成り行きと思われるので、0から構成しなおし必要がある。</p>	
<p>◎改善策</p> <p>①男子学生が入学し、2年目を迎える 15 年度では、自治活動（白蝶祭など）の中心に男子学生を据え、さらに活発な活動が行われるべくサポートをしていきたい。積極的にリクルート活動をしていきたいと考える。</p> <p>②保育学科の、3 クラブに参加しない学生の受け皿として、ダンスバトルへの参加をすすめていきたい。また従来白蝶祭の実行委員になる学生が少なかったので、保育学科の学生を積極的に受け入れていきたい。</p> <p>③ダンスバトルの活動については平成 15 年度新しい実行委員会が組織された上で運営がなされるので、それを見越した上で 3 学科で構成するダンスチームを組織する準備を計画したい。その際、音楽と動きの夕べとの兼ね合いもあるので、早めにダンス顧問の野田先生と協議の上、対応を練る必要がある。新しい試みとなるので、特に今年度は学生課をあげて取り組みたい。</p>	
<p>◎備考</p>	

平成14年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教育活動の状況と指導・育成 3. 学生生活の指導ならびに相談の状況
<p>◎現状</p> <p>【指導】</p> <p>① 生活指導：アルバイトのし過ぎによる学業不振の学生に対する指導や修学意欲を喪失した学生に対する指導</p> <p>② 通学に際しての指導：特に車両通学者に対する指導は年々その必要性が高まっている。近隣の住民からの苦情も年に1～2件あり、個別・全体の指導を行っている。</p> <p>③ 進路指導：クラスアドバイザーと就職課と連携により、ここ数年 90%以上の高い就職率を誇っている。</p> <p>【相談】</p> <p>① 学業に関する相談：就学意欲を喪失したり、アルバイトに力を入れすぎるなどの影響により生活が乱れ、「結果として学業に支障をきたす学生も増えてきている。また本来基礎学力の低い学生に対する学生に対して基礎の基礎から指導をするような必要性を感じるケースが増えている。</p> <p>② 悩みに対する相談：クラスアドバイザーを中心としながら、学生課教職員と連携の上、個別に相談をしている。現状としては保健室がその中心となっており、保健室との連携なくして相談業務は行えないほど重要性が高まっている。ただ、その保健室富永先生に過大な負担がかかっているという現状もあるので、学生課教職員によるサポートも必要である。</p> <p>③ 健康に対する相談：日ごろから保健室において、精神的・肉体的な双方に関する相談が寄せられている。（別紙参照）</p>	
<p>◎改善策</p> <p>1) 1年次から2年次に進級する際、学科内外で、あらためて一人一人の学生について情報交換を行い、場合によっては保護者に連絡をしながら、卒業を目指すことも必要と思われる。基準となる単位数など、学科で規定し、それに満たない学生については早期に対応することが必要である。</p> <p>2) 健康指導・相談においては、精神的な面において重篤な症状を抱える学生が各学科において1～2名ほどおり、関係機関との連携が必須である。保健室やクラスアドバイザーでの対応では無理な場合には、医療機関などとの連携を積極的に行う必要がある。</p> <p>また、教員が学生指導のあり方について悩むケースもしばしばある。個人で抱え込まないで、学科内や各課においていろんな先生方のアドバイスをもらいながらケースにあたることも必要である。</p> <p>3) 健康管理については、学生の健康（持病）に関する情報を把握し、事前の指導に結び付けたい。内科検診やレントゲン撮影などの結果をクラスアドバイザーにフィードバックしたり、逆にクラスアドバイザーから学生の健康面における注意事項を教えもらう、予防的に学生への指導へとむすびつけることも重要と思われる。</p> <p>学生への指導とも関連するが、禁煙に対する啓蒙活動を継続しながら健康への意識付けも行い続けたいと考える。</p>	
◎備考	

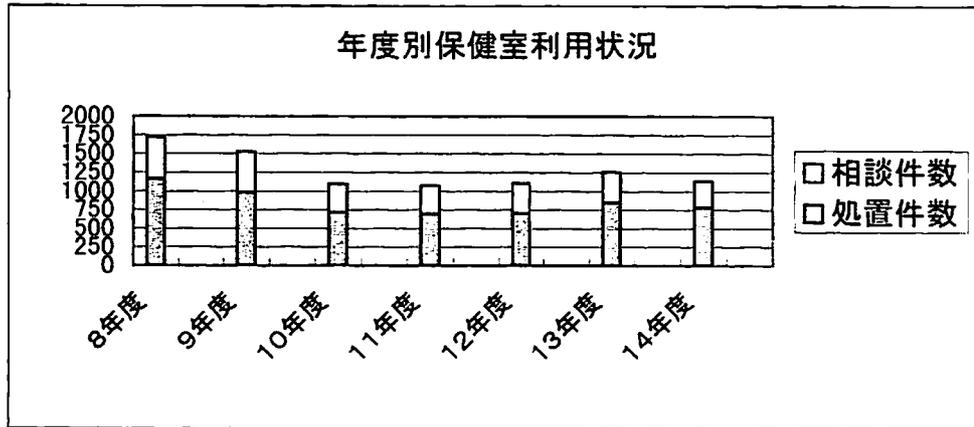
平成14年度 自己点検・評価報告書(学生課 保健室)

自己点検 評価項目	保健室の現状と今後の課題 利用状況・健康診断結果
<p>現状</p> <p>(1) 保健室利用状況</p> <p>年間利用総件数は3月末で1134件で、昨年と比較して122件減少している。内訳では、健康相談(症状に対する不安)や生理痛に対する処置が減少している。健康相談では、今まで症状に対する不安や対処の仕方の相談が多かったが、今年度より「学校保健ニュース」の情報提供を開始したことは良かったと考える。また、インフルエンザが流行したが、登校停止の処置により、自宅休養が増えたと考える。逆に昨年より増加しているのが、外傷・擦過傷や対人関係の悩みであった。外傷・擦過傷では、男子の利用が目立った。対人関係ではコミュニケーションが充分に取れない学生や不十分で孤立したり、不登校や欠席につながっている。相談件数では、本人の生い立ちや家庭環境、経済的理由など様々な要因が重なり、不安定で混乱状態となり、過呼吸・リストカットなどの症状を呈した。この内、2名の学生は昼夜を問わず周囲の友人に支えられ、何とか進級、卒業を迎えた。保健室では、夜間の訪問や、メールでの対応が頻回にあった。また周囲の友人を支える役割も大きかった。今年度は、8名の学生が長期間頻回に保健室を利用した。本人が混乱すると周囲の学生も不安定となり、相談行動に結びついている。今年度は特にメールでの相談が増えたのが特徴的であった。</p> <p>(2) 健康診断結果</p> <p>身体測定・胸部レントゲン撮影・内科診察の受診率は100%であった。胸部レントゲンの結果は肺結核の罹患者は0名、側わん症3名、側わん傾向2名であった。内科検診結果、17名の学生が心雑音や貧血などの指摘を受け、15名が病院受診、その内、4名が治療に結びついた。残り11名は治療を要するまでもなかった。しかし、2名の学生は再三の促しにもかかわらず、受診に至らなかった。内科検診未受診者は校医のご厚意で6月の水曜午後を4回当てて頂き、スムーズに受診ができた。身体測定の肥満とやせの判定結果では、BMI値による分類では全体の79%が普通、肥満が11%、やせ10%であった。また体脂肪率も合わせた、35%以上の肥満者は2%(8名)で、逆に17%(男子14%)以下では2%(9名)であった。やせの学生には保健指導を行ったが、拒食など問題となる学生はいなかった。肥満の学生は1名が正常範囲になった。体脂肪率が多い学生が目立つ。機会をとらえて指導をすることで、日常生活を見直すきっかけとなっている。</p> <p>今後の課題と改善策</p> <p>(1) 健康診断と健康教育</p> <p>性感染症、喫煙、妊娠、摂食障害、適正体重の維持、アルコールのイッキ飲み防止に関しては今後も継続する必要がある。今年度より尿検査を開始した。検査は病気の早期発見にとっても必要であるが、未検者が54名おり、今後提出先、方法など検討する必要がある。</p> <p>(2) 健康相談</p> <p>男女共学となり、同棲の問題が出ている。学内で基本的姿勢を打ち出し、オリエンテーションなどで伝えておく必要があると考える。相談の時間は個々により異なるが、長時間を要する場合が多い。相談件数も増加している。一人暮らしの学生は経済的理由で受診行動に結びつくことが難しい。是非専門のカウンセラーなどが必要であると考え。現在の保健室は、相談中に再三の入室で、中断したり中止することが多い。また、学生は数人で訪れることが多いため現在の保健室が狭い。学生の中には、最初数名で何回か訪れ、そのうち相談したり、友人がいなくて保健室で過ごす場合がある。学生の居場所としての保健室機能が現在は満たされていない。入口は担架の入室にも支障をきたしている。</p>	

「平成14年度保健室利用状況」

1. 年度別にみる保健室利用状況

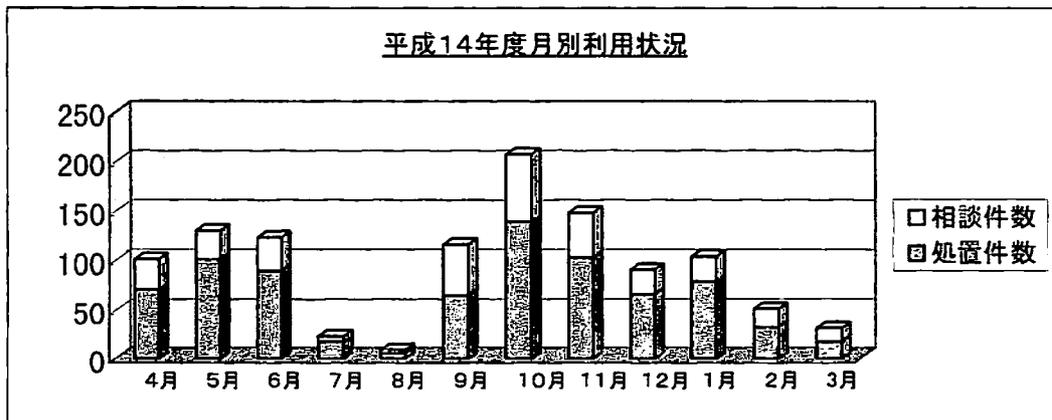
件数/年度	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度	
	件数	比率												
1 処置件数	1159	67%	980	64%	717	65%	691	65%	705	64%	849	68%	786	69%
2 相談件数	559	33%	542	36%	380	35%	380	35%	400	36%	407	32%	348	31%
延べ件数	1718	100%	1522	100%	1097	100%	1071	100%	1105	100%	1256	100%	1134	100%



年度別にみる保健室利用状況では平成8年度、9年度は高い利用件数であったが、その後3年間はほぼ横ばい、平成13年度は151件の増加であった。平成14年度の総件数は、1134件で昨年と比べると、122件減少した。(処置件数63件、相談件数59件の減少) 今年度はインフルエンザの流行があったが、利用件数は減少している。これは登校停止などの処置ができるようになり、自宅休養に結びついたものと考えられる。

2. 平成14年度月別利用状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
処置件数	71	101	90	17	6	65	139	103	66	79	32	17	786	69%
相談件数	30	29	33	6	3	51	68	45	25	25	19	14	348	31%
合計	101	130	123	23	9	116	207	148	91	104	51	31	1134	100%



月別利用状況では、今年度は6月と9月に例年より減数した。特に6月は相談件数が、9月は処置件数が減少している。これは学校保健ニュースなどで情報提供を開始したことも不安の軽減になった。

3. 平成14年度項目別利用状況

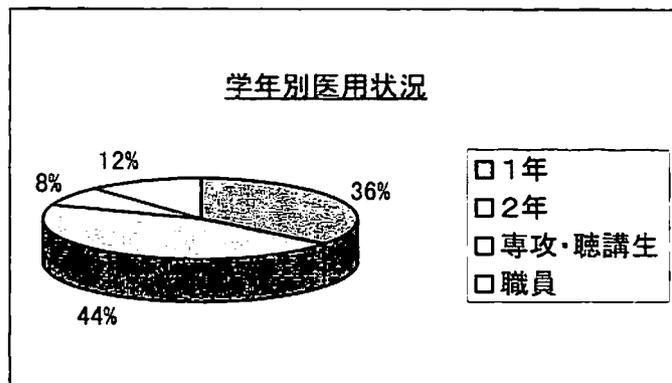
項目別利用状況(利用項目の多い順より)		
1. 健康不安などの相談	182件	16%
2. 風邪などの感染	176件	16%
3. 疼痛(頭痛・腰痛・歯)	132件	12%
4. 自律神経症状	106件	9%
5. 外傷・擦過傷	105件	9%
6. 生理痛	94件	8%
7. 対人関係の悩み	81件	7%
8. 皮膚科症状	73件	6%

昨年同様、健康相談件数が最も多かったが昨年度より約30件減少した。インフルエンザが流行したが、風邪などでの利用は減っている。また生理痛の訴えによる処置も減少した。逆に増加したのは、外傷・擦過傷や対人関係の悩みであった。これは男子の利用も多かった。

4. 学年別による利用状況

学年/件数	件数	割合
1年	403	36%
2年	509	45%
専攻・聴講生	90	8%
職員	132	12%

学年別では2年生の利用件数が多かった。



平成14年度 各月の保健室利用状況

[延べ件数]

項 目	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	比率
風邪などの感染症状		3	14	16	3	0	7	30	36	18	37	8	4	176	16%
胃腸症状・不眠など自律神経症状		13	22	11	2	4	9	11	11	8	9	5	1	106	9%
頭痛・腰痛・歯痛などの疼痛		11	27	19	5	1	8	19	13	11	7	4	7	132	12%
生理痛		15	10	9	1	0	15	16	12	5	8	2	1	94	8%
貧血症状		2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0%
過呼吸		0	1	1	0	0	0	0	1	0	1	1	0	5	0%
喘息		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0%
外傷・擦過傷		11	12	15	1	1	5	27	8	9	8	5	3	105	9%
突き指・捻挫		4	1	1	0	0	0	7	5	3	3	1	0	25	2%
火傷		4	1	3	0	0	0	1	3	0	0	0	0	12	1%
眼・耳鼻科症状		3	4	4	2	0	11	16	3	3	2	4	0	52	5%
皮膚科症状		5	9	11	3	0	9	12	10	8	3	2	1	73	6%
その他(けいれんなど)		0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0%
処置件数		71	101	90	17	6	65	139	103	66	79	32	17	786	69%
健康不安などの相談		22	15	17	1	1	28	36	20	12	14	9	7	182	16%
対人関係の悩み		3	7	11	3	1	11	12	11	6	9	6	1	81	7%
月経不順		2	2	0	1	0	0	2	4	3	0	0	0	14	1%
ダイエット		1	0	2	0	0	0	3	5	0	0	0	0	11	1%
進路		1	0	0	0	0	5	1	2	0	0	1	3	13	1%
便秘		0	3	1	0	0	0	3	1	0	0	0	0	8	1%
アトピー		0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	0%
面接その他		1	2	2	1	1	7	11	2	2	1	3	3	36	3%
相談件数		30	29	33	6	3	51	68	45	25	25	19	14	348	31%
合計		101	130	123	23	9	116	207	148	91	104	51	31	1134	100%
1年		37	48	56	9	1	32	85	49	31	41	10	4	403	36%
2年		41	59	51	4	5	63	100	68	39	38	28	13	509	45%
専攻・聴講生・他		6	12	6	1	0	7	6	20	13	13	5	1	90	8%
職員		17	11	10	9	3	14	16	11	8	12	8	13	132	12%
ベッド使用		15	15	13	2	0	14	17	12	8	10	2	0	108	
担架使用		0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4	
病院同行		2	0	1	0	0	1	0	4	2	0	0	0	10	
学研災手続き		1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	
STDなど(人)		1	1	1	0	0	2	1	3	1	2	1	0	13	
入院者		0	0	1	0	1	0	0	2	1	1	0	0	6	

身体測定結果(平成14年度)

1. クラス別による身体測定平均値 (表1)

クラス	身長 cm	体重 kg	胸囲 cm	BMI値	体脂肪率 %	BMI分類 (ア)				(イ)		
						BMI普通	肥満1	肥満2	BMIやせ	クラス	肥満	やせ
						人数	人数	人数	人数	全人数	人数	人数
食物科1男子	175.6	66.5	89.0	21.6	21.8	1	0	0	0	1	0	0
保育学科1年	168.5	66.8	89.0	23.6	19.5	10	1	2	0	13	1	0
英語科1男子	176.1	70.2	92.0	22.6	21.5	6	2	0	0	8	0	0
1年男子平均	173.4	67.8	90.0	22.6	20.9	17	3	2	0	22	1	0
食物科1A女子	158.8	58.4	88.3	23.1	32.4	6	0	0	0	6	0	0
食物科1B女子	155.4	57.3	87.9	23.5	32.2	7	0	1	0	8	1	0
保育学科1女子	156.5	51.6	83.1	21.1	21.3	79	7	0	11	97	0	7
英語科1A女子	158.1	52.6	84.0	21.1	28.6	14	1	1	3	19	1	0
英語科1B女子	159.3	54.5	84.9	21.5	29.5	14	3	0	2	19	0	0
英語科1C女子	159.9	54.1	85.5	21.2	29.2	16	2	0	5	23	0	0
1年女子平均	158.0	54.8	85.6	21.9	28.9	136	13	2	21	172	2	7
食物科2A	157.9	54.6	84.5	21.9	30.0	31	5	0	5	41	0	1
食物科2B	157.4	54.5	85.5	22.0	30.1	34	6	1	1	42	1	0
保育学科2	157.2	52.6	83.7	21.3	25.6	88	8	0	9	105	0	1
英語科2A	156.7	52.0	83.5	21.2	29.5	21	1	2	3	27	2	0
英語科2B	158.0	53.3	84.0	21.4	27.9	19	2	0	4	25	0	0
英語科2C	159.4	54.2	85.4	21.3	28.8	17	1	0	2	20	0	0
2年女子平均	157.8	53.5	84.4	21.5	28.7	210	23	3	24	260	3	2
食物専攻科1	158.4	56.1	87.3	22.3	29.9	9	2	1	2	14	1	0
食物専攻科2	160.0	52.3	83.5	20.5	26.4	9	0	0	2	11	0	0
福祉専攻科	158.1	61.4	91.3	24.6	33.3	3	1	1	1	6	1	0
専攻科平均	158.8	56.6	87.4	22.5	29.9	21	3	2	5	31	2	0
合計(人)						384	42	9	50	485	8	9
全体の割合						79%	9%	2%	10%	100%	2%	2%

2. 全体的にみるBMI値と肥満・やせの割合

(ア) BMI = 体重kg ÷ (身長)² 値による分類基準 (「日本肥満学会(2001年)による肥満の判定基準」)

BMI	18.5 未満	18.5以上 ~25未満	25以上 ~30未満	30以上 ~35未満	35以上 ~40未満	40以上
判定	低体重	普通体重	肥満(1度)	肥満(2度)	肥満(3度)	肥満(4度)

*表1 (ア) BMI分類

BMI普通 : BMI18.5以上~25未満

BMI肥満1 : BMI25以上~30未満

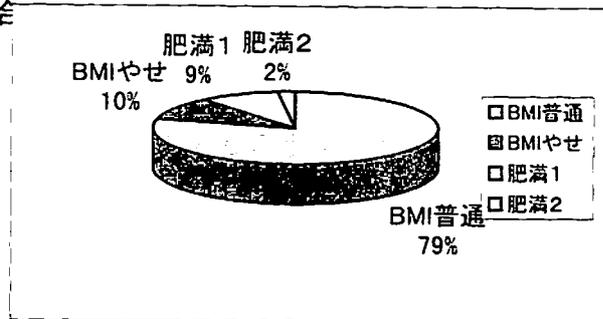
BMI肥満2 : BMI30以上

BMIやせ : BMI18.5未満

BMIによる分類では、全体の約80%が普通で10%が肥満、残り10%がやせである。
詳しくはBMI普通は全体の79%(384人)であり、BMI肥満1度が9%(42名)、
BMI肥満2度以上は2%(9名)である。(2度が7名、3度と4度が各1名)
またBMIやせは10%(50名)で、その中で極端なやせといわれる16.5以下は、男子は
0名、女子は8名(1年3名・2年3名・専攻科2名)であった。

表1(ア)

BMI値による肥満・やせの割合



3. クラス別にみる体脂肪率と肥満・やせの割合

体脂肪率判定基準

性別	適正範囲		境界域	軽度の肥満	肥満	極度の肥満
	30歳未満	30歳以上				
男性	14~20%	17~23%		25~30%未満	30~35%未満	35%以上
女性	17~24%	20~27%		30~35%未満	35~40%未満	40%以上

表1によると体脂肪率クラス平均で、男子2クラスと女子9クラスが境界域である。更に女子の5クラスは軽度の肥満域であり、適正範囲のクラスは2クラスしかない。これは測定値の変動が関係していることもあるが、体脂肪率が多い女子が目立つ。また保育学科が低く、食物科が高い傾向を示した。

4. BMI と体脂肪率を併用した肥満・やせの割合

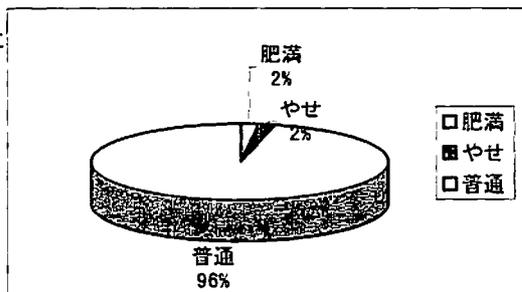
*表1(イ) 肥満とやせ分類

肥満 : BMI30以上及び体脂肪率35%以上(男子30%以上)

やせ : BMI18.5未満及び体脂肪率17%以下(男子14%以下)

表1(イ) BMIと体脂肪率を併用した分類によると、BMI30以上及び体脂肪率35%以上は全体の2%(8名)であり、BMI18.5未満及び体脂肪率17%以下のやせは9名であった。

表1(イ) BMIと体脂肪率を併用した肥満・やせの割合



(ア)と(イ)の結果より

校医とも相談の結果、肥満を肥満2(BMI30)以上とした。その結果、9名(男子2名)が該当した。これに体脂肪率35%以上(男子30%以上)を併用すると8名であり上記と全員が重複した。このことから肥満のスクリーニングには肥満2(BMI30)以上をチェックする必要があると考える。一方BMI16.5以下の極端なやせは8名であり、BMI18.5未満及び体脂肪率17%以下(男子14%以下)は9名であった。しかしこの両者は必ずしも重複しない。(17名中2名が重複) これはBMI上では極端なやせであっても、体脂肪率は17%以上を有していることを示す。体脂肪率が17%以下であれば容易に無月経を起こしやすいといわれている為、これはスクリーニングの必要がある。

以上のことから、肥満をBMI30以上、一方 やせをとBMI18.5未満及び体脂肪率17%以下をチェックすることが必要だと考える。

上記の結果より、24名の学生を食事や運動などの生活状況、血圧、生理、貧血などの身体状態、摂食状況、家族歴などの方向から確認し、病気や異常の早期発見に努めることが必要であると考え。そこで身体測定や保健室への訪問の際に保健指導を試みた。やせ者に対しては特に異常は認められなかった。肥満者の内1名は、正常範囲になった。今後も本人の自覚を促し、少しずつでも努力することができるよう支えていきたいと考える。

平成14年度学生健康診断結果

H14.9.30
保健室

1. 内科検診の受診状況と検診結果

1年生は全学生を対象に、2年生は必要を認める者や希望者を対象に内科検診が行われた。
受診者は1年生が207名(99.5%)、2年生が91名で6回にわたって行われた。
その結果、心雑音他17名が要所見者であった。(1名は重複) (表1)

(表1)

学科	学年	クラス人数 (人)	受診者数 (人)	受診率 (%)	内科検診結果			
					心雑音	貧血(疑い)	甲状腺腫大(疑い)	関心症(疑い)
食物科	1年A	7	7	100	0	0	2	0
	1年B	8	7	88%	0	0	0	0
	2年A	41	9		0	0	0	0
	2年B	41	13		0	0	0	0
保育学科	1年	110	110	100	1	1	1	2
	2年	105	29		0	1	0	0
英語科	1年A	19	19	100	1	1	0	0
	1年B	19	19	100	0	0	1	0
	1年C	31	31	100	0	0	1	0
	2年A	27	19		0	1	0	0
	2年B	25	10		0	1	1	0
	2年C	20	5		0	0	0	1
食物専攻科	1年	14	14	100	1	1	0	0
	2年	12	6		0	0	0	0
福祉専攻科		6	0		0	0	0	0
合計		485	298		3	6	6	3

2. 尿検査結果(表2) 内科検診と尿検査の受診結果(表3)

全学生を対象に早朝尿の検査を4回にわたって行った。
尿検査数は430名、未検査数が54名(11%)もいた。
尿検査(糖・蛋白・潜血)の結果は(+)以上を陽性者とし、一次陽性者は11名であった。
その後の二次尿検査において、異常がある者 4名を病院紹介とした。(表2)
内科検診後14名が病院紹介となったが、4名が治療開始、他異常なし、2名が未受診者であった。

(表2)

(表3)

()は尿検査受診結果

学科	学年	尿検査結果				内科検診(尿検査)受診結果				
		検者数	未検査者	異常なし	二次陽性者	治療開始	紹介予定	経過観察	異常なし	未受診
食物科	1年A	5	2	5	0	1			1	
	1年B	8	0	8	0					
	2年A	40	1	40	0					
	2年B	37	4	37	0					
保育学科	1年	97	13	95	1	1		1(1)		1
	2年	94	11	93	1				(1)	1
英語科	1年A	19	0	19	0			1		1
	1年B	18	1	0	0				1	
	1年C	30	1	29	1			(1)		1
	2年A	24	3	24	0	1				
	2年B	19	6	19	0			1	1	
食物専攻科	1年	13	1	13	0	1				
	2年	11	0	11	0					(1)
福祉専攻科		5	1	5	0					
合計		430	54	407	4	4	0	3(2)	3(1)	4(1)
比率		89%	11%	95%	0.9%	未受診5名の内1名は受診済みだが結果不明 1名は帰国				

平成14年度胸部レントゲン撮影結果

H14.7.22
保健室

1. 胸部レントゲン受診状況と精密検査結果

484名を対象に5回にわたって間接、直接の胸部レントゲン撮影が行われた。
受診率は100%で結核の罹患者はいなかった。
間接撮影の結果、4名が要受診(側わん症3名・右側大動脈弓1名)であり、その内の側わん症2名は経過観察、1名は受診予定、右側大動脈弓の1名は日常生活に支障なしであった。二次の直接撮影者は11名で、その内9名が異常なし、2名が病院紹介となった。病院紹介後、精密検査の結果では日常生活に支障なし(1名)と経過観察(1名)であった。

学科別胸部レントゲン受診状況と検査結果

学科	間接撮影 対象者数	直接撮影 対象者数	間接直接 受診率	直接撮影検査結果			
				異常なし	経過観察	支障なし	要治療
食物科1年	15	0	100%				
保育学科1年	110	2	100%	2			
英語科1年	69	6	100%	4	1	1	
食物科2年	82	0	100%				
保育学科2年	105	0	100%				
英語科2年	72	2	100%	2			
食物専攻科	25	1	100%	1			
福祉専攻科	6	0	100%				
合計	484	11	100%	9	1	1	0

2. 間接撮影結果で有所見者

X線所見	人数	指示	受診結果	備考
側わん症	3	校医へ	指導と経過観察 2名・受診予定1名	保2年2名・食専2年1名
右側大動脈弓	1	校医へ	日常生活支障なし	保2年1名
側わん傾向	2	保健指導		保1年1名・食2年B1名

- ・側わん症～学業をほぼ平常に行ってよいが、医師による直接の医療行為を必要とするか、定期的に医師の観察指導を必要とするもの
- ・側わん傾向～全く正常な生活を行って差し支えなく、特に定期的な医師の観察指導を必要としないもの
- ・右側大動脈弓～通常左側にある大動脈弓が、右側にある状態

3. 直接撮影結果で有所見者

X線所見	人数	指示	受診結果	備考
炎症後変化の疑い	1	佐世保総合病院紹介	支障なし	英語科1年B
炎症後変化の疑い	1	佐世保総合病院紹介	経過観察	英語科1年C

保健室年間業務

(平成14年度)

月/対象	学 生	教職員	その他
4月	保健講話 (保育学科1年生を除く全学生対象) 保健所より 性教育・喫煙・アルコール 定期健康測定(全学生対象) 健康調査・身長・体重・胸囲 視力・体脂肪率・健康調査 胸部レントゲン撮影16, 18日(間接全学生) 尿検査 ・17日(一次尿) 面接 ・健康調査票より必要な学生 ・診断書提出者 ・クラス担任よりの依頼者 保健だより(身体測定の結果) 発行(胸部レントゲンでわかること) (ホスピタルマップ)		保育学科1年医薬品準備 健康管理カード集計 (～6月) 防虫駆除 (ごきぶり) 学校保健ニュースの 年間購読開始・広報
5月	胸部レントゲン撮影9, 21, 31日(直接・直接) 面接 (保健指導・病院紹介等) 内科診察(1年全員・2年一部)16, 23日 尿検査 ・8, 21日(一次尿・二次尿) 保健だより発行 ・ハチやムカデに注意・対処法 ・五月病について	健康診断 (一般・THP)20, 27日 子宮ガン検診 業者委託	学生教育災害保険 申込み(全員)
6月	尿検査 ・5日(一次尿・二次尿) たかき内科へ内科検診:6, 13, 20, 27日 健康診断後の保健指導・病院紹介など	健康診断結果指導 12日 業者委託	学生X線撮影結果 報告
7月 8月	休暇後の面接(病院紹介者など) 7月1日保育学科1年(110名)応急手当講習		オープンキャンパス 送迎用薬品準備 大学保健管理研究 協議会参加(琉球大学) 身体測定結果集計入力 ごきぶり・だんご虫駆除
9月	休暇後の面接指導 広報(結核の常識)		
10月	白蝶祭展示他(骨粗鬆症について)		釜山訪問医薬品準備
11月	「世界エイズデー」レッドリボン・ポスター作成		
12月	レッドリボンツリー飾り 広報「ご注意 冬の食中毒」		
1月	1月6日保育学科2年(34名)応急手当講習 はたちの献血(31名参加)		
2月			健康状況報告(校医へ)
3月	保健講話(福祉専攻科)		エイズ講習会参加
通年	応急処置・健康相談・保健指導・医療機関への紹介 健康測定証明書発行(384通)・欠課証明発行(保健室利用分) 学生教育研究災害障害保険手続き(3名) 保健室利用状況調査(毎月) 血糖値(臨時)測定		

平成14年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教育活動の状況と指導・育成 5. 留年・休学・退学の状況
◎現状	
食物科：1年生 2年生 保育学科1年生 2年生 英語科 1年生 2年生	休学者 0名 退学者 1名（進路変更。高校より他者とのコミュニケーションが苦手で、実習中心の授業についていけない。） 休学者 0名 退学者 1名（修学意欲低下による出席不足で卒業延期） 休学者 0名（家庭の事情による学生1名、2名は学習意欲喪失） 退学者 3名（学習意欲喪失1名、進路変更1名、経済的事情1名） 除籍者 1名（経済的事情） 休学者 0名 退学者 0名 休学者 1名（精神疾患の治療のため、のちに退学したので下段の退学者数に含まれる） 退学者 6名（留学生が5名、日本人は1名。その日本人については上記の通り。留学生については、就職が決まったり、大学院受験へ進路変更をしたりといった理由である。） 休学者 1名（精神疾患の治療に専念するため、のちに退学したので下段の退学者数に含まれる） 退学者 3名（うち1名は上記休学者であるので記述の通り。残り1名については就職するため、残り1名の留学生は病気の治療のため） 編入学 1名（長崎国際大学より後期に編入） 退学者の大部分を占めるのは留学生であるが、留学生の場合他の日本人学生と異なり、社会人であったり本国で大学を卒業するなど、入学時の背景がさまざまであり、進路指導上難しい側面がある。ただ、入学試験時での面接等で修学意欲等を詳しく調べたり、経済面の調査をすることで多少減少をはかることができると思われる。 日本人の場合、修学意欲の喪失という問題が指摘される。 また、昨今の不景気を反映し、経済的事情でやむを得ず除籍や退学になったケースもあり何らかの対応ができないかという要望もある。 また入学前より精神疾患がありそれが環境の変化等で悪化し、結果として修学ができなくなったケースもあった。
◎改善策	
<p>留学生については前述の通り、選抜試験時の面接等を詳細に行うことで改善が見込まれる。</p> <p>修学意欲をなくした学生については、日頃の出欠状況、単位の取得状況をクラスアドバイザーが把握し、早めに親に連絡することが必要である。近年、自分の子どもに関心を持たない親が増え、学校に行っていないことやアルバイトのことも本人任せにしている結果欠席がちになり退学になるケースもある。学生との信頼関係も大切だが、状況次第では早めに親に連絡し、親子で問題に取り組むようなケースも今後は増えてくることが予測される。</p> <p>また精神疾患を持病とする学生の場合、状況が悪化してから親や高校に問い合わせをし内容が明らかになるケースがある。できることなら事前に情報として保健室やクラスアドバイザーへの連絡が望まれるが、プライバシーの問題等もあり難しい側面がある。今後は発見した段階で、専門医など関係諸機関と連携し、専門的な治療をする必要がある。</p> <p>総合的には、教職員相互間での情報の共有や指導方法の研究などをすることが望まれる。対応の難しい学生を抱えた教員が悩んでしまうこともありえるが、そのまま抱え込まずに他の教職員からのアドバイスをもらったりすることで乗り越えることができることも少なくないと思われるので、まず学科間での取り組みを始めたい。</p>	
◎備考	

平成14年度教務課自己点検・評価

- I. 教育理念・教育目標
 - 1) 短期大学の過去と現在をふまえた未来展望
 - 2) 建学の精神と教育理念・教育目標
 - 3) 目標の明確性と達成度
 - 4) 課題と改善

- II. 教育活動
 - 4) 教育課程
 - (1)カリキュラム編成方針と教育理念・教育目標との関係
 - (2)カリキュラム編成の見直し
 - 5) 教育指導
 - (1)ガイダンスの実施
 - (2)時間割編成
 - (3)各授業科目担当者間での授業内容の調整
 - (4)成績評価と単位認定
 - (5)学外実習の実施状況
 - (6)視聴覚教育の実施状況
 - (7)単位互換制度の活用
 - (8)職業資格取得状況と指導状況
 - (9)進級状況
 - 6) 授業方法の工夫・研究
 - (1)授業概要の作成・提示
 - (2)授業方法の工夫・研究のための取り組み
 - (3)教員の教育活動に対する評価（授業評価）

- III. 研究活動等
 - 1) 研修制度
 - 2) 研究活動・発表
 - 3) 学外活動
 - 4) 研究費
 - 5) 研究紀要

- VII. 社会との連携
 - 1) 公開講座の開設
 - 2) 特別入学（社会人入学・科目等履修）
 - 3) 地域社会の諸活動と協力体制

I . 教育理念・教育目標

1) 短期大学の過去と現在をふまえた未来展望

(1) 本学は昭和21年戦後の荒廃した社会の中で、九州女子専門学校として開学され、その後、社会の変化と地域の要望期待に応じて変革し、昭和41年から短期大学として高等教育の一翼を担ってきた。本学には、更に深く学びたい学生のために専攻科を設置していたが、平成12年には4年制大学志向が高まる中で、短大をそのまま存続させた上で、本学園に長崎国際大学が開学された。

今後の本学の短大教育は、4年制の長崎国際大学と連携を密にして、学生により広く高い学問を効率的に学ばせる努力が望まれている。そこで、総合学園としての特徴を活かしより高い教育効果を求めて、高校と短大・大学との連携を緊密化するための高大連携推進協議会並びに短期大学将来構想に関する研究会を発足させて組織的に教育力の充実に努めている。

2) 建学の精神と教育理念・教育目標

(1) 建学の精神

- ①高い知性と豊かな教養をもつこと。
- ②たくましい意志と健康な体を養うこと。
- ③日本女性の誇るべき特性と品格の香り高さを身につけること。

(平成14年度から保育士等男子学生の志願もあり男女共学を開始)

(2) 教育理念・教育目標

- ①社会の熟成化の中での人間的自立性を高める。
- ②社会の変革の中で専門的職業人としての実学と教養を高める。
- ③国際的感覚と視野をもった国際人となる。
- ④日本古来の礼節、文化を学び、徳を高める。

(3) 建学の精神及び教育方針を実現するための具体的な方策

- ①茶道精神の生活場面での実践化
- ②師弟同行による大学生活の充実(教員と学生がつくりあげる大学生活)
- ③卒業後の目的を明確化する専門教育(資格付与等)
- ④地域社会に貢献する大学(各種行事への参加)

3) 目標の明確性と達成度

建学の精神を継承し、社会の要請に応えることができるように教育方針を設定し、さらにその具体的な方策を立て、各学科はこれらのねらいを受けて、その具現化のためにきめ細かな教育計画を立案している。

- ①食物科については、時代の流れから調理師養成及び製菓衛生師養成のための教育課程に改変して、再出発第1年目であったが、適切な指導陣のもとで学科目標の達成に着実に効果をあげている。
- ②英語科については、国際性や国際化の観点から従来の留学制度の上に、さらに4か月のオーストラリア留学制度を導入し、2年間で卒業できる教育課程を編成して実施し、期待できる成果であった。
- ③保育学科については、社会の要請に応じて男子学生も受け入れての教育を開始したが、問題点はなく、むしろ誠実で目的意識をしっかりとち意欲的に活動する男子学生によって雰囲気は好転した。

4) 課題と改善

- (1) 本学各学科の教育目標の設定にあたって、基本線として社会の要請や保護者や学生の要望を組み込んだ教育目標の修正に努めている点を良としながらも、高大連携推進協議会や短期大学の将来構想研究会、更にはFD等の拡充によって、より適切な本学の教育目標及び学科目標の設定に努めていくことが望まれる。
- (2) 入学してくる学生の目的意識や学習意欲・学力は幅広く、多様な学生に満足のできる教育の在り方を考えると、各学科が現在具体的なきめ細かな教育目標を設定して取り組んでいるが、今後いっそう下位目標を明確にするよう努力しなければならない。
- (3) 男子学生を受け入れたので、建学の精神にはなかった男子教育についての方針も打ち出し、そのための取り組みも必要ではないだろうか。

Ⅱ . 教 育 活 動

4) 教育課程

(1) カリキュラム編成方針と教育理念・目標との関係

(1)現状

①各学科のカリキュラム編成方針

本学の教育方針及び教育目標を受けて、各学科が学科目標を設定してその具現化のための取り組みを行っている。

食物科 - [調理コース] 調理師免許取得のためのカリキュラムに沿い、また短期大学での調理師養成であることを活かした様々な実践的知識・技術習得を目指している。また、国民の健康づくりに係わる職業人として、多様化する食環境に対応できる能力をもつ調理師の育成を目標とする。

[製菓コース] 洋菓子・和菓子・パンの製菓技術のみならず、衛生教育に力を入れ、安全で国民に楽しみと潤いを与えることが出来る製菓衛生師の養成を目標としている。

保育学科 - 乳幼児期の保育に関する専門科目の知識を学び、実習を通して、子どもとの心の通じ合える創造的で個性豊かな保育士及び幼稚園教諭の養成を目指す。また、障害者や老人に対する福祉の面にも理解を深めている。さらには、国際化に対応した授業として、児童文化の中でチャイルドケアセンター訪問を取り入れている。

英語科 - 生きた英語力を修得し、実践的で就職に直結できる科目を開設することによって、自分の進路に合わせた学習を可能にし、社会に有為な人材を育成する。

授業以外にも市内在住の外国人とのふれあいを重視した諸行事を計画的に実施して、生きた英語力を身につけるとともに、国際交流・国際理解にも努めている。

②長崎国際大学との連携

本学卒業生で長崎国際大学3年次編入学する学生がいることを考慮して、カリキュラムの整合性を図ることに努めた。また、長崎国際大学の教授陣の力を借り、本学各学科の教育指導の充実を図った。

・観光・サービス英語	・コリア語 ——	・国際旅行業論 ——
・給食管理実習一	・観光地理学 ——	・ホテルネージメン
・社会福祉概論一	・介護福祉概論一	・臨床栄養学実習一

(2)課題

① 資格取得を目標にして入学してくる学生に対して、英語科では有効性の少ない秘書士資格の取得を廃し、それに代わる有効性のあるものとして、各種の資格取得に役立つ科目を開設することにしてはいるが、より多くの学生の受講を促し、その充実を図っていく必要がある。

② 食物科においては平成14年度より、調理コースと製菓コースの教育課程に大改編して再出発したが、調理師及び製菓衛生師としての専門的知識・技能を十分に修得するだけではなく、豊かな人間性と教養を身につけた職業人の育成に、各領域の科目が果たす役割を確認し指導にあたる。

③ 基礎学力の不足している学生が、専門教育科目を学習するのに困らないようにするために、教育課程編成においても、特別の工夫が望まれている。

(3)改善策

① 英語科では、平成14年度より各種資格の取得を支援するために新科目（秘書学ⅠⅡ、コンピュータ利用・ビジネス実務・時事研究）を開設したが、さらに実効性の高い科目としてビジネスマナーを新設することにしてはいる。

② 食物科においては、授業評価や学生の学習評価の記録を集積し、より効率的で有効な授業を可能にする教育課程編成の改善が望まれる。調理師・製菓衛生師養成の要は技術と理論である。技術を身につけるためには、実習の時間の拡大が必要であり、平成15年度は実習時間を増すことにした。

③ 基礎学力の不足を基礎教育科目の学習だけで補うことには無理があり、それだけに専門教育科目の中で補充的な基礎教育の指導が必要であり、どうしても専門教育の修得に支障があるようであれば補充指導をする場の設定が必要になる。

(2)カリキュラム編成の見直し

①現状

- 1) 資格取得のために法規上で義務づけられている開設科目については、その条件を充たした上で、さらに、実力ある資格取得者を養成するために、2年間という限られた期間・時間割の中で有効な科目の設定に努めている。
- 2) 選択科目については、学生の科目選択の状況や施設関係者の意見も参考にしてカリキュラムの変更を検討している。
また、基礎教育科目については、専門教育科目に必要とされる内容の学習を重視するとともに、一般教養として必要とされる内容の科目開設にも努めている。
- 3) 食物科では調理師及び製菓衛生師養成課程として出発1年目で、養成に必要なカリキュラムを充たし、さらに規定科目を拡大して専門家としての知識・技術の習得を目指している。
- 4) 保育学科では福祉系と保育系の基幹科目の連携を十分にとってカリキュラム編成ができています。

②課題

- 1) 学校5日制導入によって月曜日から金曜日までの5日間の時間割に科目配置をすると、どうしても一部の科目は5時限目の授業となり、学生にとってはかなりの負担になっている。
- 2) 英語科では専門教育科目を中心に配置するために、教職科目は土曜日の開設にならざるを得ない状況にあり、また、オーストラリア留学生は後期教職科目の履修ができない状況になり、教職課程履修を希望しながら履修を諦めざるを得ない者が出た。(15年度は改善できるように検討)
- 3) カリキュラムの改変については、学生の実態や産業界からの養成等を採り入れて、きめ細かな対応に努めているが、そのために履修登録及び成績処理・管理のためのコンピューター作業が短期間にせざるを得ない状況になり無理が生じている。
- 4) 各学科の教育及び指導方針を非常勤講師に伝える確かな場の設定がなく、そのため学科の教育方針を十分に組み込んだ授業がなされにくい部分がある。

③改善策

- 1) 限られた時間割の中で、いかに豊かな教養を身につけ、職業上の技能をもった人間を養成するか大変困難な状況下にあるが、カリキュラム編成の改善と同時に、科目の授業をいかに充実したものにするか、その改善に努力する必要性が大きい。
- 2) カリキュラムの変更作業はなるべく早期にとりかかり、前期末には次年度の科目が決定できるように努める必要がある。
- 3) 教員が理想とするカリキュラムと学生のニーズが必ずしも一致していない部分がわかってきた。将来、学生にとってどのような科目編成のカリキュラムがより有意義なのか考えてみる必要がある。

5) 教育指導

(1) ガイダンスの実施状況

① 現状

新入生については、入学式の次の日からオリエンテーション3日間の中で、1日目に教務課から科目履修についての説明をし、2日目に各学科の説明の中で必修科目の学習のあり方や選択科目の履修について詳細に解説している。さらに、ホームルームの時間に、各個人の履修登録の仕方を説明して登録させ、その後5月末までに、履修辞退を受け付けて履修登録を確定している。この間、履修についての個人的相談を受け付ける時と場を設けている。進路と履修したがよい選択科目との関係についての質問が多い。

後期については、4月の履修申込みの修正を受け付け、前期同様11月末までに履修辞退を受け付け履修登録を確定している。

2年生については、4月当初に履修説明の時間を特設してガイダンスを行い、1年生と同様な取扱いをしている。

3分の2以上の出席回数がないと受験資格を失い、単位取得できないことを十分に説明しているが、欠席や遅刻が多く受験資格を失う学生がいる。この防止のために、欠席が2回以上続いたり、出席不良な学生については科目担当教員からクラスアドバイザーに連絡して指導をすることになっている。

学園内外の生活に必要な基本事項は、オリエンテーション中に情報提供して、困ることのないようにし、さらに毎週のホームルームの時間に徹底を図っている。

学生間及び教員との人間関係を良好に保つ出発点として、各学科親睦の場を設けている。特に保育学科においては、その特性から宿泊訓練も設けている。

② 課題

- 1) 4月に後期科目を含めて履修登録をさせているが、その段階で履修申込みをしていなかった学生が後期になって追加履修申込みを希望する者がいて、年度当初の履修申込みを多めにさせている。そのため履修辞退者がかなりの数になり、担当者の履修登録の確定に煩雑さが多くなっている。
- 2) 履修辞退届を提出しないまま受講放棄をする学生がいるため、成績処理上で成績が0点となっている。(外部への成績証明には履修しなかったという取扱いをしている。)
- 3) 特に留学生については日本語能力の問題もあり、時間をかけ指導の徹底が望まれる。
- 4) 出席督促については、常勤教員からの連絡はよくなされているが、非常勤教員からの連絡があまり期待できない状況にある。
- 5) 62単位修得すれば卒業できるという、最低線をクリアーすることを目標とするような学生がいて、卒業可能か危険性を感じる場合がある。入学第1段階で、学ぶ意義及び目的についてホームルーム等でしっかり理解させる必要がある。
- 6) 学園生活に必要な情報は基本的に掲示板によって通知しているが、見ていない学生がいて、徹底できないことがある。

③ 改善策

- 1) 学則についての理解、特に履修規程についての理解をもっと徹底する必要がある。
何よりも、学則及び諸規程についての受けとめ方の甘さを払拭して、厳しく自己管理(出席状況の自己把握)していくことの大切さを、あらゆる場を通して指導していかねばならない。
- 2) 履修記録については、コンピュータ処理された結果が単票にして学生に期末ごとに渡されるが、その単票を学生便覧の履修記録欄に貼付させて、各自に単位取得状況を常に確認させて、計画的に確実に履修するように指導することが望まれる。
- 3) 履修関係だけではなく学園生活の必要事項の周知徹底には、ホームルームの出席をもっと確実なものにして、アドバイザー制を活かした指導に努める必要がある。
- 4) 文化の異なる地域からの留学生については、日常生活及び学園生活に関する必要な知識が習得できるように日本事情概論という科目を設けて言語・風習を学ぶことにした。

(2)時間割編成

①現状

時間割編成の手順

- ア. 各学科の教育目標、重点指導の設定
- イ. 目標達成に必要な基礎教育及び専門教育科目の開設
- ウ. 各科目の担当教員の選定
- エ. 学科会議において時間割編成の基本方針を確認
- オ. 教員の担当可能時間帯、特に非常勤講師の担当科目を配置
- カ. 学生の学習過程で効率的な学習ができるように科目配置
- キ. これらの時間割編成作業は各学科の教務課教員がコンピュータを使っているが、最終場面では手作業による配置の調整作業が必要となる。

食物科では養成に必要なカリキュラムを拡大し、更に規定外の科目の充実を図ったため、時間割上かなりハードになっているが、学生は進路に沿った選択を行うことができる。また、実習を午後を設定したことで、次の授業を気にすることなく納得のいく実習が可能になった。

②課題

- ア. 開設科目の決定は早期になされても、科目担当教員の選定作業が遅れて、時間割編成作業に支障が出ることもある。
- イ. 時間割編成は授業を担当している教員が授業の合間に作業しており、かなり遅くまで居残って編成作業をしており、この編成作業の担当及び作業の改善が必要である。
- ウ. 学校5日制に対応して、土曜日の科目をなくして月曜日から金曜日までを5時限まで開設すべきか課題であり、検討した結果土曜日も授業を配置しているが、状況の推移をみて継続検討課題としておきたい。
- エ. 選択科目の抱き合わせ（同時限開設）については、学生の履修予想数を考えて設定する必要がある。（科目によっては選択科目AとBの履修数に偏りが大きくなるように配慮）
- ク. 短期大学基準では授業は15回実施することが基準となっているが、本学学校暦では前期の火～土が12回、月曜日が11回で、後期は月曜日10回、火・土曜日13回、水～金曜日15回となり、完結できない科目については補講期間を設けて実施した。
- ケ. 食物科は15回(300時間)の授業時間の確保が必要なため補講日数が増える。

③改善策

- 1) 事務当局の人事に関する作業は早期に取り組み、開設科目を担当する教員について計画的に事務作業を遂行し、時間割編成に支障がないように改善していかなければならない。（特に単位互換制度の発足に伴い、時間割の決定が12月末までに、最終修正も1月末までと限定されている。）
- 2) 時間割の科目設定において、必修科目と選択科目のバランス及び選択科目間のバランスを十分に考慮して設定していく必要がある。この面では、非常勤講師の時間は絶対的に動かせない状況が多く、自由に設定できる時間が限られるが、諸条件を総合的に判断して最良のものにしたい。

この面の改善には、新2年生については前年度末に次年度の履修科目の簡単な基礎調査をして、その結果を参考にして時間割編成することが望まれる。

- 3) 授業内容の充実のために授業時間の確保に工夫することは必要であるが、現状では限られた時間数の中で如何に効率的な授業をするかに努めざるを得ない。どうしても授業完結できない場合は、補講をして授業を完結することがにしている。ただし、15年度の後期月曜日の時数確保には、曜日の入替えて、水・木・金曜日に各1回月曜授業の実施で平均化を図ることにした。

養成課程では授業時数が規定されているため、調理・製菓コースでは補講が必要となる。前期は夏休みに補講ができるが、後期は冬休みが短く補講が困難で、補講期間の設定が必要である。

(3)成績評価と単位認定

①現状

試験規程（学則第20条第2項）

成績処理は次の基準の成績評点によってなされている。

(1)優 100点から80点まで

(2)良 70点から60点まで

(3)可 59点から50点まで 可以上を合格とし、不可は不合格となる。

(4)不可 49点以下

単位認定に関しては、上記の基準によってなされているが、期末試験の結果不合格であった学生については再試験を実施し、その結果が70点以上を合格として、評価は50点としている。

再試験の結果が不合格であった場合、次年度に再履修することを原則とし、時間割上で再履修ができない場合、教授会及び学長承認後に卒業年次に認定試験を実施することとしている。

成績処理をするにあたっては、単に期末試験によってのみ評価することなく、日常的な学習態度及びレポート等の結果も十分に考慮して評価するようにしている。（授業概要の中に評価の方法も記載している。）

平成14年度追・再試験実施状況

学 期	前期科目数		後期科目数	
	1年	2年	1年	2年
食 物 科	5	7	4	5
保 育 学 科	8	6	11	14
英 語 科	5	5	6	7

* 該当受験者数は少ない科目で2～3人
多い科目では10～20人にも及ぶ。

②課題

日常的な授業の中で学生の学習に対する関心、意欲、態度をどのように記録し評価に繋げるか、課題である。ともすると学生は学期末試験のときだけ学習して一定以上の評点であればそれでよしと安易に考える傾向がある。

本学の評価基準は50点以上で合格＝単位取得と基準を低く設定しているにもかかわらず、これをクリアできない学生がかなりいて、追・再試験科目数は上記の通りである。本試験から追・再試験までの間が短く、十分に再復習させる時間がないことも問題である。

再試験で不合格になる学生で、時間割上再履修できない場合、卒業認定試験を受験して合格すれば単位取得できるが、不合格でしかも資格取得に必要な必修科目であった場合、資格が取得できないままに卒業となるケースもあり、このような学生をどのようにして出さないようにするか課題である。

履修辞退届を提出しないで放置した場合、成績表に0点の表示がされ、それによって平均点が下がることを考えると、保護者へ送付する成績表には平均点欄を削除した方がよい。

③改善策

学生の授業内容の理解度をチェックしながら授業を進め、理解不十分な部分についてはフィードバックして再学習させることも必要である。

学生の学力の個人差が大きいことを考慮すると、低学力の学生に対しては個人補講的な指導の取り組みも望まれるところである。

資格取得に必要な必修科目については、学生のレベルによって学習内容を下げることができず、基礎学力の乏しい学生に対しては、各科目の授業の中で学力補充をしたり、個人的な補充指導なども考えなければならない。（時間不足で個人指導できていない点が悩みである。）

評価の要素としての知識理解と技能と関心態度の三者をどのようなウェイトで評定するか、研修課題としてとりあげ、全教員の共通理解を図ることも必要である。

(4) 各授業科目担当者間での授業内容の調整

①現状

各学科とも、科目担当者が決まると相互に授業内容について連絡を取り、相互に調整を図っている。特別の調整の会を持たなくても、常勤教員についてはさほど問題なく円滑に実施できている。しかし、非常勤講師については、常勤教員との連絡はとりやすいが、非常勤講師間での連絡があまりとられていないため、時として問題を感じることもある。

食物科の実習内容については、毎回細かい話し合いを行い、内容の調整がうまくなされているが、講義については授業概要で確認する程度しかできていない。

②課題

各科目の授業内容について、その関連性を十分に考慮した授業展開が望まれるところであり、どこかで連絡し確認できるようにしなければならない。特に非常勤講師に対してはその機会是不可欠である。

非常勤講師に対しては、単に授業内容の整合性とか関連性ということだけではなく、学科の教育方針の理解や学生指導に対する理解と協力をお願いするうえからも、ぜひ機会の設定が望まれる。

③改善策

非常勤講師に対しては、年度当初に開講日案内として時間割をお届けして、教務課の一般的事項について通知しているが、その中に必要な個々の授業関係の連絡事項をお伝えできることが望まれる。但し、これには人的時間的面から無理が感じられる。

可能であれば、授業開始日前に1度来校頂き、非常勤講師として必要な教務的事項及び教育指導関連事項について連絡できる場が設定されることが望ましい。しかし、これが難しいのであれば、せめて、第1回目の授業日に少し早く来校していただくか、授業後に残って頂いて、必要な連絡事項が確実に伝えられるように工夫しなければならない。

(5)学外実習の実施状況

①現状

各学科とも学外実習については、学生の実習希望調査と学外施設の受入れ条件との合致点を精査して、なるべく学生の希望に沿える実習が可能になるように計画している。

特に、県外出身者が地元へ帰省しての実習を希望する場合、施設との連絡を密にして円滑な実習ができるように十分配慮しているが、県外学生を受入れる施設が少ないという悩みがある。

学外実習に出す前には、事前指導を十分にし、基本的な行動、態度、言葉づかいをはじめとして実習生としての心得や基本技能をよく指導した上で実習に向かわせているが、十分とはいえない。

実習中に、関係教員が可能な限り施設を訪問して実習状況や問題の有無を把握し、また、実習日誌に日々の活動や反省を記入させ、最後に総括反省を書かせて提出させ、その結果を集約して次年度の改善に役立てている。

各学科の学外実習の実施状況

学 科	学年人数	実 習 名	期 間	実習施設数
英 語 科	1年 1年 15 2年 7	インターシップ(外国語) 介護等体験 教育実習	7月第2週～8月第2週 7月第1週～8月第1週 6月第1週～6月第3週	ハフステンボ 佐世保健学校 県内施設 各出身中学校
食 物 科	1年 7 2年 81 2年 7	調理師実習 栄養士実習 教育実習	2月第4週～3月第1週 7月第1週～7月第4週 6月第1週～6月第3週	出身地区 総. 校. 施設 出身地区 総. 校. 施設 各出身中学校
保育学科	1年 108 2年 103 2年 101	付属幼稚園実習 幼稚園実習 保育所実習	11月第1週～11月第4週 5月第4週～6月第2週 7月第1週～7月第4週	付属幼稚園 出身地区保育園 出身地区幼稚園

②課題

多くの実習が夏期休暇に入った7月第1週から始まっている。これは正規の授業に影響がない休暇中に実習する点では良としながらも、夏期休業が早く始まりそのために前期授業回が15回の確保を下回ることは問題である。

実習を実効あるものにするには、事前指導が重要であり、特に施設に迷惑をかけることなく実習目的を達成するためには事前指導の充実が不可欠である。しかし、短大の時間割上その設定に十分な時間をかけることができない実態があり、課題となっている。

学内実習(演習)については担当が非常勤講師であると、学生数と担当コマ数との関係で、演習・実習というより講義的形式の授業に流れる場合があり問題である。(保育学科においては学生数の増に対して、教員数の増が比例してないため授業の満足度が低下しかねない。)

③改善策

学生自身に実習のもつ意義を十分に理解させ、事前指導の時間以外に学生自身が自主的に実習の準備や施設についての事前調査等積極的に取り組ませる必要があるが、何よりも学生自身に目的意識をもたせ、失敗を恐れず積極的に活動する意欲をもたせることが大切である。

また、教室では学習できない現場の経験学習にどれだけ多く取り組んだか、その経験の量をも学習成果の大きな要素にしたい。

(6)視聴覚教育の実施状況

① 現状

各教室にはテレビとビデオが設置され、いつでも直ぐに活用できるように準備されている。しかし、科目の授業に適切な市販のビデオテープが少なく活用が少ない。

また、パソコンを活用した授業も活用が少ない。パソコン室の利用は情報技術の習得のための授業が中心であって、基礎教育科目や専門教育科目の授業での活用はやっと始まったところである。

(1) 施設設備の現状

1) 情報機器関係施設 — OA室(1室) OP室(1室) LL教室(1室)

平成14年度に情報通信設備(借入)の補助を受け、コンピュータ教室のコンピュータ機器を更新

・デスクトップPC(省スペース型)	80台
・液晶ディスプレイ	104台(講師画面投影用24台を含む)
・サーバ	4台(PDC, BDC, Web/Mail, File)

2) 従来1教室にあったコンピュータ教室を2教室に拡大することができた。カリキュラムと教室に余裕ができたため、英語のリスニング、情報検索を活用した講義などが、他の専門科目でも情報設備の利用が活発に行われた。また、タッチメソッドの練習時にタイピング速度よりコンピュータの反応速度が遅く待たされる課題が改善された。

3) 携帯可能なCCDカメラ付きプロジェクターとスクリーンは、教室での利用だけではなく、様々な講演や講座等でも活用された。

4) ファイルサーバの新設により、学生及び教職員が保存できる領域が増えたため、大きなメディアファイルの保存が可能になった。

5) 機器類がUSB対応となったため、スキャナやデジタルカメラの接続が容易になり、これらを使った講義も行われた。

6) OA室を利用した授業

英語科 OA機器実習(2) ワープロ(2) 実践コンピュータABC(1) ツアーマネジメント(1)
食物科 コンピュータ演習(2) 保育学科 コンピュータ演習(3)

(2)ソフトウェアの現状

従来のソフトウェアのバージョンが旧式化していたため、上記機器類の更新に併せて、私立大学等経常費補助金特別補助情報化推進特別経費(平成14年度教育学術コンテンツ教育研究用ソフトウェア)の補助を受け、ソフトウェアの更新もおこなった。

Windows XP Professional Edition	OS
Microsoft Office XP Standard	ワープロ: Word 表計算: Excel プレゼンテーション: PowerPoint
一太郎 Ver.12	ワープロ
ホームページビルダー V6.5	Weページ作成
Point Shop Pro 7.0	画像処理
ウィルスバスター	ワクチンソフト
TYPE QUICK	タイピング

OS を変更し、ワープロ、表計算ソフト等も最新バージョンとすることができ、現在多くの学生が家庭等で使っている環境と同じ環境を実現できた。

画像処理ソフト、Webページ作成ソフトの導入により、現実的なホームページの作成指導が可能になった。

ワクチンソフトの導入により、常時接続環境において必須のセキュリティに関する実施訓練が可能になった。

機器類やソフトウェアの更新を夏期休業中に行ったため、学生への影響は最小限ですませることができた。ただ、学期途中の更新となったため、インターフェイスや操作に戸惑う学生がみられた。可能であれば、年度末、年度始めの期間に更新を行うのが望ましい。

(3) 他の視聴覚機器

ビデオデッキ、カセット（CD・MD）デッキ、デジタルカメラ、ビデオカメラ等は各講義、ゼミでさまざまに活用されている。

調理実習には、講師の手元が見えるビデオカメラモニターCCYVシステムを導入し、実習講義を充実させることができた。

② 課題

パソコン室が1室しかないため、専門教育科目（例、食物科の調理学—カロリー計算）の授業で活用しようとしても、思うように利用できない状況にある。

各教室に設置してあるテレビとビデオの活用が十分にはなされていない。学習の効率を高めるにはもっと積極的に活用する必要がある。

教育機器の購入について、各学科からの必要に応じてその都度要望が出され、その時の状況により購入できたり、購入が延びたりしており、計画的な購入が望まれる。

③ 改善策

1) 視聴覚教材の活用には、まず市販の視聴覚教材の存在を精査して購入を考えるだけでなく、各大学や研究機関及び情報センター等が所有している視聴覚教材を利用することも考える必要がある。

また、ビデオテープについては市販にない場合、自作のビデオ作製を研究的に取り組むことも必要であると考え。特に実習教材などは録画しておく活用できる。

2) 教育機器並びに視聴覚教材の購入にあたっては、年度当初に各学科から購入希望願の調査をして、その結果を集約し、その必要度、使用頻度等と予算との関係から購入順序を決めて、年次計画に従った購入が出来るように改善が望まれる。

3) 情報通信関連の機器及びソフトの充実により、単体及び学内ネットワーク上の運営は改善されたが、インターネット回線の混雑が増加した。従来、専用線128Kbps を使用してきたが、昨今のネット環境やコンテンツの巨大化により回線の容量不足が顕著である。次年度は回線のブロードバンド化について取り組む必要がある。

4) LL教室の施設が旧式化しており、現在の使用環境では不具合があり、次年度以降の改善に向けて検討課題である。

5) コンピュータの普及により、プレゼンテーション資料をプロジェクタを使って投影する講義・講座が増えている。現有2台であるが、各学科に1台整備のため、あと1台追加することが望まれる。

14年度にコンピュータ機器やソフトウェアの更新により、機器の充実ができ機器を活用した情報関連以外の科目の講義にも活用が増えたが、更なる利用促進が望まれる。次年度以降の取り組みとしてはインターネット回線のブロードバンド化、LL教室の施設の更新が求められる。

(7)単位互換制度の活用

①現状

長崎県大学単位互換制度（通称NICEキャンパス長崎）の発足2年目であったが、本学関係の現状としては次の通りである。

1) 本学学生が他大学の開講科目を受講しているもの

① コーディネート科目（金曜日19時～20時30分 アルカス佐世保orワシントンホテルで開講）

前期「暮らしと学問」長崎大学 受講申込み2名（英語科） 単位取得者1名

後期「バランス考現学」長崎国際大学 受講申込み17名（英12保5） 単位取得者4名

・評価はレポートによってなされたが、いずれも出席条件を充たさず履修辞退者が多く出た。

・特に保育科については学外実習と重複して、出席条件を充たせない修辞退者であった。

（開設校の規定によるもので、公欠の配慮がないのは残念である。）

② 各大学の開講科目 各大学で時間割に従って開設され提供された科目の受講者はなし。

これは短大の時間割が過密で他大学の科目受講の余裕がないことによる。

2) 他大学生が本学の開講科目を受講している者

①茶道文化 長崎県立大学 4名 長崎国際大学1名 単位取得者 3名（辞退1）

②歴史 長崎県立大学 4名 単位取得者 3名

③発達心理学 長崎国際大学 2名 単位取得者 2名

④公衆衛生学 長崎県立大学 4名 単位取得者 0（途中辞退）

⑤公衆衛生学演習 長崎県立大学 4名 単位取得者 0（途中辞退）

2年間をかけて「茶道文化」及び「歴史」の単位習得した学生が3名いたことは意外であった。

②課題

長崎県大学単位互換制度は学生に、より広い学問をより深く学べる場を提供しようという目的で、また、他大学のキャンパスで学生とふれあい、自校にはないような科目を多くの教授陣から学べるという利点が期待されて始められたが、短期大学においては2年間という短期間のため、自校の時間割だけで過密状態であり、他大学の科目を受講できる余裕がない。

せいぜい、授業時間外に開設されるコーディネート科目くらいしか受講できない。しかも、この科目も、学外実習と重なると十分な受講ができず、受講可能期間に興味関心の高い講座を受講する程度である。

また、アルカス佐世保までの交通費に1回800円程度かかり、15回で12000円になり学生にとって負担になっている。交通費の軽減策が望まれるところである。（ワシントンホテルの開催ホテルの駅で電報料）

③改善策

県内大学が地理的に分散していて、折角の単位互換制度ではあるが、時間的に受講できない状況にある。可能性があるのはコーディネート科目の受講であるため、交通関係の補助・支援が望まれる。（公的に望めないなら、学生の自家用車の相乗りにより、ガソリン代・駐車料の割り勘等で、受講経費の軽減を考えてやりたい。）

また、学外実習と重なった場合、公欠扱いがなされて、受講継続し単位取得できて、しかもその履修科目単位が自校の卒業要件科目と読み代えられることが望まれる。（現状は開設大学の規定に従うしかないが、改善を検討してほしいところである。）

成績処理については各大学間の連絡の緊密化（評価方法・時期）が必要である。また、学生に出席指導をするために、各大学へ出席状況の報告が望まれる。

(8)職業資格取得状況と指導状況

①現状

短期大学では多くの学生が職業資格の取得を目的として入学してくる。それだけに、各学科とも学科の教育目標としている資格取得をいかに完全達成させるかが課題となっている。

平成14年度の資格取得の状況

学 科	資格と取得者数 ()内は在籍数に対する%
食 物 科	栄養士81 (100 %) 秘書士11 (14%) 中学校教諭二種免許〔家庭〕7 (9%)
保 育 学 科	保育士100 (94 %) 幼稚園教諭二種99 (93%)
英 語 科	秘書士18 (26%) 中学校教諭二種免許〔英語〕7 (10%)
食物栄養専攻	管理栄養士 3 (30%) 靴13年卒業
福 祉 専 攻	介護福祉士 6(100%)

食物科では栄養士として就職する学生と専攻科進学の学生に対して、就業・進学前の集中講義を開いて、学力を十分につけて送りだしている。

②課題

各学科とも、授業を充実し、学生に真剣な学習をさせ、全員に資格取得ができるようにするにはいかなる教育を实践すればよいか、大きな課題である。

特に、最近では入学してくる学生の基礎学力の低下が目につき、これらの学生に資格取得に必要な学力をつけさせることは簡単ではない。定期試験の結果、合格できず再試験をうけるが、再試験でも合格できずに、再履修或いは卒業認定試験まで持ち越す者がいる。それでも合格できず、資格は取得できないが、卒業要件を充たして卒業していく学生がいる。保育学科で保育士資格のない卒業生が5名、幼稚園教諭免許が取得できなかった卒業生が6名いる。

中には、卒業後科目等履修によって、再度履修して単位取得して資格を取得しようという者もいるので、卒業後も進路の相談にのっていく必要がある。

③改善策

入学して、何回か授業をしてみれば、各学生の方々の学力は把握できるので、学力の低い学生に対しては、計画的継続的な個人指導が必要となる。

また、英語科ではオリエンテーション時に再度一斉学力試験と英会話能力テストを実施して、その結果で、科目によっては能力別クラス編成をして授業をしているが、他学科においても授業の中で学力を配慮した授業の工夫を考えたい。

さらに、食物科では期末試験不合格者を対象に個人指導をして、再試験を受験させて合格率を高めているが、他学科でも同様のリメディアル対応が望まれる。

保育学科については、保育士資格か幼稚園教諭免許のどちらかは取得するように指導を徹底しなければ、就職率の低下を招きかねない。

(9)進級状況

①現状

入学はしたものの、諸般の事情で進級しなかった者がいる。

- ア. 病気のため欠席が多く、期末試験の受験資格（3分の2以上の出席）を充たさず進級できない。
- イ. 経済的理由で勉学を続けることが出来なくなった者
- ウ. 学習意欲を失い、学習の継続を希望しない者
- エ. 進路目標の変更により積極的に退学を希望する者（就職）
- オ. 進路目標の変更により積極的に退学を希望する者（進学—大学・大学院〔留学生〕）
- カ. 問題行動による除籍

平成14年度中に退学した者の実態

学 科	病気が原因		経済的理由		意欲喪失		目標変更・就職		目標変更・大学		問題行動	
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
食 物 科						1	1					
保 育 学 科			1				1					
英 語 科	2	1				1	2	1	1			
食物栄養専攻												
福 祉 専 攻		—		—		—		—		—		—
合 計	2	1	1	0	0	2	4	1	1	0	0	0

進級はするが問題をもって進級する者

学則には、学年と取得単位の規定はない。従って、1年次にいくつかの単位取得ができなかった場合でも、進級させて再履修によって単位取得させている。但し、単位取得できなかった科目を再履修できるように時間割を編成することに苦勞している。

英語科3名 保育学科5名 食物科2名計10名が1年次の必修科目の単位修得できないままで、進級している。それぞれ2年次での学習をきちんとすれば卒業は可能となっている。

②課題

上記ア～カの理由により、進級できずに退学や休学をする学生がいるが、イのように基礎学力や学習意欲や学習態度が短期大学の科目履修に乏しい学生がいるが、これらの学生にいかにして履修を続けさせるか、大きな課題である。

イの経済的理由で在学が困難になった学生については、奨学資金を借りることを勧めているが、経済不況の影響が大きく、単に授業料等の問題というより生活の基盤そのものの維持が困難という家庭があり、学習意欲はあるのに止むなく退学していく学生がいることは残念である。

③改善策

学習意欲や態度が問題にならないように、クラスアドバイザー制を活かして、各科目担当教員とクラス担任が連絡を密にして、出席状況や学習状況を早め早めに把握して、学生に対して必要な指導をすると共に、保護者（特に親元から離れている学生の場合）にも連絡して、親御さんからの指導もお願いしていく。

6) 授業方法の工夫・研究

(1) 授業概要（シラバス）の作成・提示

①現状

授業概要作成の手順

- 1) 各学科の教育目標、重点目標の設定
- 2) 開設科目の選定
- 3) 科目担当教員の決定
- 4) 非常勤講師への委嘱状の発送
- 5) 授業概要原稿作成依頼
- 6) 授業概要の編集

授業概要の内容については、永年検討して様式を決めており、内容・様式はあまり変更することなく、一定様式で執筆を依頼しているが、各担当教員によってその記載には差がある。

様式記載項目 B5版 1科目1頁

- 1) 科目名 担当教員名 開講時期 履修形態（必修、選択）
 - 2) 授業目標
 - 3) 授業内容 — 様式1 — 毎時間の学習項目 様式2 — 全体の学習内容（どちらか）
 - 4) テキスト・参考書
 - 5) 評価方法等 ————— 必ず記載して学生に示す
- 4) 各学科シラバス作成担当者を1名決めて作成作業に取りかかっている。特に非常勤講師に対する依頼及びその集約について苦労がある。

②課題

- 1) シラバス作成段階での課題として、科目担当教員の決定が遅れるため、その後の作業全体が遅れ、辛うじて新年度に間に合うような状態である。
- 2) 1年生オリエンテーション、2年生ガイダンスの中でシラバスを配布し、その活用を説明して授業に活かすようにしているが、学生はあまり活用していないようである。担当教員も最初の授業で説明するだけで、その後活用するような場を設けていない。
- 3) 記載内容を工夫して、授業に活かす内容項目に変えていく検討が必要と思える。

③改善策

シラバスをどのように活用しているか、学生側、教員側ともに調査し、意見聴取して内容の充実及びより学習に役立つものに改善を図る必要がある。

編集作業を今年度より各学科から一人ずつ担当者を決めて作業にかかり、作業が円滑で正確にできるようになった。特にカリキュラムの大幅改編や担当者の多数の変更がある場合には、時間的に余裕がもてるように事務手続きの早期取り組みが望まれる。

シラバスに必ず成績評価の事項を記載しているように、授業改善につなぐ授業方法（教育機器の活用等）についての記載、さらには能力別指導や少人数学習の工夫等の記載も望まれるところである。

(2)授業方法の工夫・研究のための取り組み

①現状

従来の一定の方法で授業（講義）していれば、その中から必要な学習内容を学生が吸収して、授業の目的が達成できるような安易な考えは通用せず、絶えずよりよい授業のための改善を求めて努力することが必要で、授業方法の工夫・研究のための取り組みの必要性を感じながらも、現状では計画的組織的なFDがなされていない。

各教員は、如何にして効率的な授業をするか、また、理解の定着を高めるために、自分の授業を如何に改善したらよいか、模索しながら取り組みの努力をしている。

学校法人としてのFDについては、大学及び高校での複数の研修会が開かれ、その結果については、短大教職員全体に文書報告がなされた。しかし、学内全体としてのFDについては1回だけであった。（2月25日「保育者養成における高大連携」 — 他学科も参考になった。）

②課題

FDの必要性の認識はあるものの、下記のような要因でFD実施条件が充たされ難い状況にある。

- 1) 授業の持ち時間が多く、FDのための時間がなかなかとれない。
- 2) 全教員が集まって計画的継続的な研修を行うような、組織及び体制ができていない。

③改善策

- 1) 教員が出張して他大学のFDの取り組みを見聞したり、実際の授業の実態を見学して、その研修結果を全教員に還流していくことが大切である。
- 2) 上記のような研修会を計画する担当係を設定し、組織的及び年間計画に従ったFD計画を立案して、その取り組みを推進していくことが大切である。特に、パソコンを使ったCAIやCMIの教員研修会がFDの一環として計画的に開催されることが望まれる。

平成15年度には、FD委員会が組織され、年間活動計画が立案されて計画的に活動が推進されていく予定である。

- 3) 専門科目については、関連科目の担当教員が連携して、むり、むだ、むらの排除のための研修会を組織的に計画し、実践していくことが大切である。

(3)教員の教育活動に対する評価（授業評価）

①現状

毎学期末に常勤教員を対象として、学生による授業評価（5段階評価）を実施している。

1)授業評価の内容

- 1 あなたの授業態度 — ①授業に熱心に参加したか
- 2 授業の内容 ————— ②授業内容は分かりやすかったか
③授業内容は興味あるものであったか
- 3 授業方法 ————— ④話し方は明瞭であったか
⑤熱意の感じられる授業であったか
⑥教科書、配布プリント等の使用は適切であったか
⑦板書の仕方は適切であったか
⑧遅刻や私語などに適切に対応していたか
⑨授業を興味深いものにする努力をしていたか
- 4 授業に対する満足度 —⑩この授業に参加して満足できたか
- 5 その他この授業についての感想・意見・要望を自由に書いてください。

2)授業評価の方法 最終授業時間中に学生に無記名で書かせて提出させる。

3)事後処理と活用 集められた調査用紙は事務職員によって集計され、その結果は学長から各教員ごとに報告され、説明指導がなされる。

②課題

- 1) 評価対象が常勤教員は全員実施の義務を課しているが、非常勤講師については、実施義務を課してはいない。非常勤講師についても実施すべきだ、という意見で平成13年度には実施できるように準備しておき「支障がなければ実施してみてください。」と実施を呼びかけたが、殆ど実施されなかった。本年は実施を呼びかけなかったが、何らかの形で実施できることが望まれる。
(常勤教員とは違った非常勤講師用の様式の「授業評価」を考えたい。)
- 2) 学生が授業評価の目的、意義をよく理解していないまま適当に記入している。
- 3) 最終授業の最後に短時間でしかも無記名で書かせるようにしているため、全くいい加減な記載をする者が多数いる。(オール5(4)、オール3(2)など)
- 4) 授業評価の結果が授業にあまり活かされていない。(学生から同一教員について同一批判を聞く)
- 5) 様式・内容が講義科目中心で実習・実技科目の授業には不適切な評価項目がある。
- 6) 学生の質と教員の指導内容・方法の問題がクリアーになる評価基準が必要である。

③改善策

- 1) オリエンテーション・ガイダンスの中で授業評価の目的・意義・評価の仕方(基準)について説明しておく必要がある。
- 2) 評価の仕方については、評価がクリアーになるように評価基準の設定が必要である。
- 3) 学生の意見も採り入れて、評価項目の見直しが必要である。
- 4) 講義科目と実習・実験科目では内容を変えて記載させるように、内容を変えて二種類作成して、授業内容によって様式の違う評価を準備しておく。
- 5) 学生からの意見・要望に対して、どのような改善努力をしたか(するつもりか)の各教員の取組を明確にすることが大切である。

Ⅲ . 研 究 活 動 等

1) 研修制度

①現状

学内において、組織的に研修に取り組むような制度にはなっていない。各教員が自分の必要感から、研修会に出張出席して研修に努めている。

平成14年度の研修（研究）費使用しての研修出張の実態は次の通りである。

研修出張回数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	平均値
人 数	24	6	8	1	1	0	2	0.73

②課題

- 1) 研修の必要性は実感し希望をしていますが、授業等校務多忙のため研修会に出席できない場合があり、残念である。
- 2) また、出席した教職員からその成果を全員又は学科教員に還元する学内研修会がもたれていない。
- 3) 学外でなくとも、学内で教員相互の協力によって、計画的組織的な研修会をもつことも希望したいところであるが、時間的な余裕がもてない実態にある。

③改善策

- 1) 授業改善や学生理解や学生指導に役立つ学外の研修会には、誰か出席するように計画して、出席者が全教員に還元する報告会をもつことが有効と思われる。
- 2) 授業以外の校務（雑務）を整理して、研修に取り組むことのできる時間を生み出す努力が望まれる。
- 3) 新しい授業システムなど先進校の取組についての情報にうとくならないように、先進校視察的な研修を計画的に実施していくことも大切である。

2) 研究活動・発表

①現状

高等教育の使命は研究と教育であり、短期大学の教員にとって研究活動は使命であり、義務でもあるが、本学教員の研究活動は活発とは言えない。その実態の一端としては研究紀要に記載される論文数が例年12～14編あったが、平成13年度は9論文 14年度も9論文しか提出がなかった。

②課題

1) 研究と教育のバランスが必要であるが、各教員の勤務実態をみるに、日々の授業で学生にいかんして教育したらよい授業ができるか、その準備等に時間を要し、また、校務関係の雑務に追われて研究の時間が日常は持てない状況にある。

2) 研究が各個人研究にとどまり、組織的にグループで研究するような体制がとられていない。

14年度に学園全体の研修的な取組である「高大連携」というテーマのもとに、共通的な研究成果の発表が数回あったが、今後充実させていくことが望まれる。

3) 研究テーマが個人の主観的な希望テーマに偏り、地域社会や各種団体等からの要望意見を取り上げた研究があまりない。

保育学科の「短期大学の将来像を考える」という研究は、九大との連携のもとに推進されているが、このような他大学や他機関と連携した研究が望まれる。

③改善策

1) 研究時間の問題は、授業がある期間にはなかなか時間が確保できないのは止むを得ない実態とするならば、土日や長期休業中の時間を活用して研究に取り組むしかない。

2) 研究活動についての教員相互の連絡会や情報交換の場などを開くことも大切である。

3) 研究紀要は各教員に配布されるだけで、その発表の場が設けられていない。折角の研究であり、その成果を発表して、相互に研究し合うことも大切である。

3) 学外活動

①現状

短期大学には、単に学内の学生を教育するだけではなく、その教育力を活用して地域社会に貢献することも期待されているところである。本年度本学教員について学外活動についてアンケート調査を実施した。常勤教員を対象に調査依頼したが回答があった者について集計した。

活動内容〔人（行事）〕	英語科	食物科	保育科	専攻科	合計	*平成13年度資料
A 他大学等での教育活動	3 (3)	2 (2)	3 (5)		8 (10)	
B 他教育文化施設での活動	3 (3)	5 (12)	4 (11)	2 (13)	10 (39)	
C 学会活動（発表・公聴）	3 (6)		3 (7)	2 (3)	8 (16)	
D 研究会・総会・フォーラム	3 (7)	2 (2)	5 (12)	1 (3)	11 (24)	
E 調査研究等関係した機関			5 (7)	1 (2)	6 (9)	
F ボランティア活動	1 (1)	1 (2)	3 (4)	1 (1)	6 (8)	
G 書籍演奏作品・機関役員	4 (8)	1 (4)	5 (13)	1 (8)	11 (34)	

この調査結果からみると、各教員によってその活動に随分の差があり、非常に積極的意欲的に活動している者と、殆ど活動していない者とがいて、時間外や休日等の活動の状況が読み取れる。

②課題

それぞれの活動事項は、限定された特定の教職員でなければできないものもあると思うが、特定な者でなくともよい、だれでも従事できるような内容のものもあると考えられ、各人の負担の極端な軽重は避けるべく、可能なものについては担当を調整することも必要と思われる。

③改善策

本学に要請される外部からの活動依頼にどのようなものが、いつどの程度あるか把握して、それを担当するに相応しい者を選出し、しかも年間バランスをとって担当するような作業をする必要がある。

但し、短期大学は教育と研究の機関であり、外部の要請に全て対応しては本来の短大の活動が圧迫されてくることも考え、外部の要請を取捨選択して適切な学内活動の維持に努めることも大切になってくる。

教員と一緒に活動であるが、外国人教員や留学生による小中学校における「国際理解教育」は現在招聘のあった学校に出向いて活動し好評を得ているが、積極的に働きかけていく活動の計画もあってよい。

4) 研究費

①現状

教員に与えられる研究費について、どの程度何に活用されているか調査した。

(1) 本学教員の研究費 (単位千円)

	教授	助教授	講師	助手
研究費	300	250	200	100

(2) 研究費の活用状況

	0～20%	21～40%	41～60%	61～80%	81～100%
教員数	5	4	4	8	11

*平成13年度資料

②課題

折角、研究費が準備されているが、これをあまり活用せずにいる教員もいる。是非活用して、研究や授業改善に役立てることが望まれる。

研究費が不足ぎみで、購入したい専門書や研究のための備品・消耗品の購入が出来ずに困ることがあり、研究費の増額が望まれている。特に、最近では研究その他執務に不可欠の情報機器の維持及び補修に費用がかかり、肝心の研究活動費が少なくなっている傾向が出ている。

③改善策

研究費を一律配分するのではなく、研究活動の実態等に応じて配分したり、グループ研究や地域に還元できるような研究には奨励的な意味を含めて、厚めの配分をするなど考えることも必要ではないだろうか。

情報機器の消耗品等については、事務局にて一括校費購入によって使用できるように改善する方途を考える必要がある。

5) 研究紀要

①現状

学内の研究は各教員の自由裁量により、研究活動が推進されており、研究論文の成果を研究紀要に記載することになっている。毎年、常勤、非常勤を問わず、提出される論文は殆ど全編掲載するように努めている。平成12～14年度の紀要内容は次の通りである。

		論文数	専門分野	授業関連	実習関連	地域関連
食 物 科	12年度	5	5			
	13年度	4	4			
	14年度	3	3			
保 育 学 科	12年度	4	2	2		
	13年度	3	1	1	1	
	14年度	3	3			
英 語 科	12年度	4	3	1		
	13年度	1	1			
	14年度	1		1		
福 祉 茶 道	12年度	2	1	1		
	13年度	1		1		
	14年度	2	2			

②課題

- 1) 研究論文の価値がどの程度のものであるか、評価を受けたことがなく、記載論文の評価が気になる場所である。
- 2) 発行された紀要は全国の大学や研究機関約250校に送付しているが、最近は蔵書の限界から送付を断る機関もあり、本学の図書館もその傾向にある。

③改善策

- ・ 上記の1)については、一度専門家の意見批評をきいて、内容、表記、表現等の改善に役立てることが必要と思う。
- ・ 2)については数年前に、送付希望の有無を調査して、その際に少し減数できたが、もう少し思い切った減数をしてよいのではなかろうか。(例 短大、九州地区大学、本学と同じ学科を持つ短大や大学等に限定)

最近の研究紀要のデータベース化が全国的な組織で進められており、本学もその検討をしてみる必要がある。

Ⅶ．社会との連携

1) 公開講座の開設

①現状

学校を社会に開いて、地域住民に生涯学習の場を提供することは期待されているところであり、その期待に応えるために、本学としても可能な限り、学習の場を公開講座の形で提供した。

本学の平成14年度公開講座の実状

公開講座名称	担当学科	開講回数	会場	参加延べ人数
おもしろ国際学	英語科	8	本学カテホール	640
管理栄養士養成講座	食物科	10	西地区公民館	349

いずれの講座も大変好評で、今後継続して開講されることが期待されている。

毎年、実施の最終回に出席者の意見要望を聴取して改善が試みられ、より好ましい講座になってきている。

なお、保育学科が以前は開催していた施設職員対象の「介護福祉士養成講座」や幼稚園教員対象の「実技指導講座」等は諸般の事情で本年度開催されなかった。

②課題

講座担当者はその計画から運営実施、そして総括まで、学務と並行しての作業で負担は大きい。実際の講座は教員が担当するとしても、事務局に計画運営に専門的に係わる職員の存在が望まれる。現在は、担当学科教員と事務局も含めての協同作業として運営にあたっているが、人員不足が感じられる。

九文高校からは学内の実習施設の開放や、高校生にも役立つ科目の開放が求められているが、物理的に可能なものについては、開放を考えたいが具体的な部分になると問題点も感じられる。

管理栄養士国家試験対策講座については、食物科が栄養士養成から離れる来年度以降、卒業生の対象講座として開講していくかどうか問題である。また、調理師・製菓衛生師養成に困んだ新たな講座も視野に入れて、検討しなければならない。

③改善策

今後、地域の要望がますます拡大していく傾向にあり、それに応えるためには、本学は施設設備を提供して、講師陣には学外のその道の権威者をお願いするような方法も考えていくことが必要と思われる。（英語科の「おもしろ国際学」が多方面の人材を活用して実施されているように）

2) 特別入学（社会人入学・科目等履修生）

①現状

生涯学習社会を迎え、学ぶ意欲のある者にはその機会を提供することが望まれている。そして、そこで学んだことが社会できちんと評価されることが期待されている。

本学でも、社会人の入学を歓迎しているところであるが、実態としては次の通りである。

平成14年度社会人入学生及び科目等履修生

学 科	社会人入学生	目 的	科目等履修生	目 的
食 物 科	2	栄養士資格取得	1	管理栄養士国家試験受験準備のため
保 育 学 科	3	幼稚園 係 社 資格取得		
英 語 科	留学生1年20・2年15	日本の高等教育を受ける。		
専 攻 科	1	介護福祉士資格取得		

*英語科在籍の留学生（主として中国から）は殆ど高卒・大卒の後、一旦社会経験をしてからの入学生である。

社会人の存在は一般学生にとっても、その学ぶ姿勢などが大変よい刺激となっている。また、社会人の感想は、若い学生の中で学べることの幸せを実感し、好評である。

②課題

生涯学習の一貫として入学してきた社会人にとって、本学で学び取得した資格を活かして活躍する場が少なく、せっかく取得した免許を活せない場合は残念である。

本学に在学中に資格取得の必修科目の単位を落として、卒業後に科目等履修によって単位を取得して、資格を得ようとする学生がいるが、本人のやる気と学力不足でどうしても単位取得ができずに、目的を達成できない科目等履修生がいることは、考えさせられる点がある。

③改善策

社会人入学に関しては、しっかりした現状認識をもってもらった上で、その入学目的を明確にして、学んだ結果が喜びにつながるようにしていきたい。

本学卒業生で資格取得のための不足科目単位の履修を目的として入学してくる学生に対しては、本人の能力及び学力から判断して、その可能性の有無を伝えてから取り組ませることも必要と思われる。

3) 地域社会の諸活動と協力体制

①現状

地域に根ざした短大として、地域社会の各方面から行事に対する協力依頼が届き、短大としては学生の社会参加体験の場として、可能な限り協力してきた。

1) 平成14年度 地域社会活動への参加

学 科	地域行事名	短大行事名	市民参加の全学行事
保育学科	<ul style="list-style-type: none"> ・マーチング フェスタ ・佐世保祭り(マーチング.ダンス) ・キラキラフェスタ(マーチング) ・子どもクリスマス大会 ・市民体育祭(オープニングセレモニー) ・サセボボウル(アマト・セレモニー) ・スプリングフェスタ (ダンス・マーチング) 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽と動きの夕べ 	<ul style="list-style-type: none"> ・茶道大会 ・茶道大会
食物科	<ul style="list-style-type: none"> ・相浦おくんち(神輿) ・佐世保祭り(神輿) ・糖尿病教室栄養指導(専科) 		
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・佐世保祭り(ハローウィーン様) ・小学校の国際理解教育(餅) 	<ul style="list-style-type: none"> ・キングスクール(稲穂地区学校)との交流茶道 	

2) 諸活動参加の過程

- ①地域諸団体からの協力依頼(学生課受付)
- ②学生課会議での検討(目的、意義、授業との関係)
- ③部門長会議に提案・承認
- ④教職員会議で具体的活動計画承認

②課題

地域行事への協力依頼が来ても、授業との関係で授業カットをしないでも済むような行事はよいとしても、授業カットが必要な行事は極力避けているものの授業カットしているものもある。

ア佐世保祭り(11/3)に全学科参加し、翌日代休となり4コマ授業カット、

イ市民参加の茶道大会(12/9)は全学行事翌日代休となり4コマ授業カット

ウ相浦おくんちに食物科の神輿が出演授業2コマ授業カット

保育学科の「音楽と動きの夕べ」は学習の成果を市民に発表する場で、そのために前日のリハーサルで4コマ授業カットは、授業の一環としてなされるもので問題はないが、授業に直接関係ない行事については、むやみに参加することなく検討することが大切である。

学生が帰省する長期休業中の行事については、学生に無理な負担がかからないように配慮しなければならない。

③改善策

短大の地域貢献という点からは、地域行事への参加協力は大きい結構という共通理解はしながらも、授業時数確保の観点から、もう一度学校行事と地域行事参加について総合的に検討してみなければならない。

特に短大の教育活動をそのまま提供すだけのものであればよいが、提供・参加するために特別の練習が必要なものについては、その時間確保等の問題点をクリアーできる方途を考えなければならない。(例、研究クラブの在り方など)

平成 1 4 年度 自己点検・評価報告

自己点検 評価項目	求人開拓・職業指導と就職状況
--------------	----------------

求人開拓

< 現状 >

企業のインターネットによる求人採用により、就職課を通さず直接学生へのアプローチが増加し、就職課への求人票が減少してきた。一年を通して企業訪問をし就職先の定着指導と併せて求人情報を収集した。また、学生が希望する企業、施設を挙げさせ効率良く訪問した。

ハローワークと連携して求人情報を提供した。

訪問企業・施設数 1 0 3 箇所

求人票受付件数 2 7 4 社 (昨年度 3 8 6 社)

産業別求人件数

	長崎県内	県外	合計
建設	0	0	0
製造	5	4	9
電気・ガス・水道	0	2	2
運輸・通信	6	6	12
卸売・小売・飲食	26	11	37
金融・不動産	6	8	14
サービス	125	75	200
合計	168社	106社	274社

職業別求人件数

	長崎県内	県外	合計
専門・事務・管理	131	63	194
販売	16	31	47
サービス	21	12	33
合計	168社	106社	274社

<改善策>

1. 保育学科学生の増加に伴い保育所・幼稚園を中心に開拓する。また、専門資格を生かせるような企業・施設・編入大学を開拓する。

職業指導

<現状>

職業指導については就職課専任スタッフ3名(男2女1)と各科2年クラスアドバイザー食物科2名(女2)・保育学科2名(女2)・英語科2名(男2)合計9名でおこなった。クラスアドバイザーで個人面接をおこない、進路の希望調査、ホームルームで求人票の掲示、求人情報を紹介、進路相談などきめの細かい指導をした。就職課では1年生の10月から2年生の6月まで各学科各週毎に時間割の中に就職講座(時間45分)を組み入れ、履歴書の書き方、求人票の見方、資料請求の仕方、電話のかけ方、面接試験対策など実践的な指導をおこなった。また、模擬面接を放課後及び学生の空きコマを利用し実施。主に会議室を利用し本番と同じ環境を設定、ビデオカメラで撮影しながら顔の表情等をチェック、学生自身に視覚的に面接のポイントを理解させることに努めた。携帯電話(メールアドレス付き)を持っている学生に、求人情報をメールで配信するサービスをした。8割の学生が登録し、卒業後も未就職者は登録をし就職指導・追跡調査に効果的であった。航空業界を目指す学生のために航空業界研究会を発足。より専門的内容をゼミ形式で勉強させ、就職講座では模擬面接をするなど中心的立場で学生全体を引っ張った。保育科学生には自己紹介書を各自作成させ、自分が希望する幼稚園・保育所へ就職課より送付した。その結果、直接学生へ園より連絡があり、面接・試験と就職に繋がった。

<改善策>

1. 学生のコンピュータによる就職活動のバックアップ及び指導の徹底。
2. インターンシップの推進
現在、英語科の実施しているが、全学的に実施できるよう検討する。
3. 就職後、安易に退職するケースが出てきたので、働くことの意義、不況時の就職の厳しさを理解させる。内定者に対する指導を徹底させる。
4. 就職課の独自のホームページ作成し、企業へのアピールを強化したい。
幅広く学生に就職情報を提供する。

就職状況

<現状>

平成15年3月卒業学科別就職状況

	学生数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	就職者+進学者
食物	81	56	51	91.1%	17	68
保育	105	82	80	97.6%	19	99
英語	70	45	43	95.6%	21	64
合計	256	183	174	95.1%	57	231

平成14年3月卒業学科別就職状況

	学生数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	就職者+進学者
食物	69	53	49	92.5%	12	61
保育	67	58	58	100%	7	65
英語	61	30	28	93.3%	24	52
合計	197	141	135	95.7%	43	178

業種別就職状況 (全学科)

	長崎県内	県外	合計	
建設	0	0	0	0%
製造	6	1	7	4%
電気ガス	0	0	0	0%
運輸・通信	3	2	5	3%
卸売・小売・飲食	8	7	15	8%
金融・保険	0	1	1	1%
サービス	110	32	142	82%
公務	1	3	4	2%
合計	128	46	174	100%
	73%	28%		

業種職種別就職状況

英語科

保育学科

食物科

業種	
ホテル	25%
航空・運輸・旅行	8%
その他	34%
進学・留学	33%
合計	100%

業種	
保育所	57%
幼稚園	15%
その他	9%
進学	19%
合計	100%

業種	
給食受託	13%
施設	29%
一般企業	29%
その他	4%
進学	25%
合計	100%

職種	
サービス	56%
事務	35%
営業・販売	9%
合計	100%

職種	
保育士	73%
幼稚園教諭	19%
その他	8%
合計	100%

職種	
栄養士	47%
調理師	8%
その他	45%
合計	100%

食物科は前年度比1.4%のダウンの91.1%の就職率でした。前半、企業・施設から栄養士関係の求人が出遅れ、また、栄養士に固執するあまり一般企業への受験を手控える学生が多かったが、後半、学生の動きがよくなり55%の学生が病院・福祉施設の調理・栄養士などの専門職に就職が決定した。保育学科は、昨年に続き就職講座できめ細かく指導。幼稚園・保育所へ年賀状送付、履歴書送付、施設訪問など積極的に動いたが、前年度比2.4%ダウンの97.6%であった。そのうち92%が資格を生かした幼稚園・保育所に就職を決めた。定員増に伴い42名増加した。長崎県内学生が、85%の割合を占めており、受け入れ先確保に力をいれた、今後県外の学生を入れていかないと県内採用は難しい状況である。

英語科は昨年度比2.3%アップの95.6%でした。長崎県外からの学生が多く、また、学生が希望する業種も多様化している。インターネットの利用により幅広く情報収集をし、積極的に企業セミナーに参加し就職戦線を勝ち抜き、英語科の学生に人気のある空港グランドサービスなど空港関係に就職を決めた。三学科平均では昨年度比0.6%のダウンで95.1%と昨年に続き高就職率を維持している。これはクラスアドバイザーのきめの細かい指導と全学を挙げての協力体制で学生を指導した結果だと思ふ。

<改善策>

1. 食物科が初めて調理・製菓コースの学生を送り出すので、受け入れ先確保に力を入れる。

卒業生の他大学への進学状況

英語科

長崎国際大学(16名)、秀明大学(1名)、チチェスター大学(英国)(1名)、バース大学(英国)(1名)、アイルオブワイト大学(英国)(1名)、釜山女子大学(韓国)(1名)

合計21名

食物科

長崎短期大学科専攻科食物栄養専攻(16名)、くらしき作陽大学(1名)

合計17名

保育学科

長崎短期大学福祉専攻科(14名)、長崎国際大学社会福祉学科(2名)、福岡教育大学(2名)、職業訓練校(1名)

合計19名

総合計57名

平成 14 年度自己点検自己評価

(外国人留学生)

項目	今年度の状況	前年度からの問題点	改善できた点・できなかった点
留学生の受入れ	中国人 23 人 韓国人 3 人 交換留学生 1 人(慶北科学大学、韓国、テグ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 国籍の多様化が望まれる ● アパートの確保、掃除、備品設置等で不備、不具合が生じた。 ● アルバイト探しは、困難をきわめた。特に、日本語ができない学生は、長期間探すことができなかった。 ● ゴミ処理法についての周知徹底がやはり難しい。 ● 交換留学生については、ホームステイ先が毎年同じ家庭ばかりになり、その確保が次第に難しくなってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● できなかった。 ● 昨年度よりも改善された。 ● アルバイト探しは、依然として困難。 ● 「日本事情概論」の授業の中でも指導を行い、昨年度よりも改善された。 ● 男子学生でもあったので、アルバイト等のことも考え、アパートに変更した。
入管取次業務資格の取得について	現在 2 名	留学生の増加に伴い、入管取次業務資格者の増員が望まれたが、実現できなかった。	入管取次業務資格者の増員を現在 2 名から 2 名増員して計 4 名とする。

(日本人学生)

項目	今年度の状況	前年度からの問題点	改善できた点・できなかった点
短期留学		イラク戦争による影響が多大で、多くのキャンセルが出た。	プログラムを延期し、時期を考慮しつつ、学生の海外研修へのニーズに応えた。
中期留学プログラム	オーアウトラリアサザンクロス大学語学センター(豪、コフスハーバー)への4ヶ月の中期留学プログラムが創設され、11名の学生が参加した。		
交換留学生	アイルオブワイトカレッジ(英)1名 チチェスターカレッジ(英)1名 パースカレッジ(英)1名 釜山女子大学(韓国、釜山)1名	本年度、イラク戦争による影響で、マウントサンアントニオカレッジ(米、カリフォルニア)は派遣できなかった。	
グローバルカレッジネットワーク			4月、北京—USA英語・言語学院から副校長が長崎短期大学を訪問され、学生の新たな交流プログラムを企画中
釜山女子大茶道大会派遣と受入れ	派遣に関しては、12名の学生と4名の教員が参加した。 受入れに関しては、13名の学生と4名の教員が来佐され、韓国式茶道を紹介した。	テロや戦争による影響で参加者減少。派遣に関しては、SARSによる影響がでている。	

平成14年度

自己点検・評価報告書

長崎短期大学図書館

自己点検	1・図書館の利用状況
評価項目	2・図書館の運営状況

図書館運営の年間スケジュール計画表

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション資料作成 ・図書館便り作成・標示 ・図書館作業計画表作成 ・図書費の確認と予算案作成 ・4月末利用統計 	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・次年度購読雑誌の検討・洋書更新手続き ・第3期購入希望図書リスト用紙配布 ・10月末利用統計
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期購入希望図書リスト用紙配布 ・第1期図書購入計画 ・第1期購入図書発注 ・5月末利用統計 	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期図書購入計画 ・第3期購入図書発注 ・次年度購読雑誌更新手続き [和書] ・11月末利用統計
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・督促状作成・配布 ・6月末利用統計 	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・督促状作成・配布 ・図書館大掃除 ・12月末利用統計
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期購入図書整理 ・データ入力作業 ・第2期購入希望図書リスト用紙配布 ・7月末利用統計 	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・1月末利用統計
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力作業 ・8月末利用統計 ・図書館大掃除 	2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・督促状作成・標示 ・2月末利用統計 ・蔵書点検
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・第2期図書購入計画 ・第2期購入図書発注 ・9月末利用統計 	3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・3月末利用統計 ・年度末利用統計 ・決算報告書作成 ・紀要発送作業 ・平成14年度報告書作成

I・図書館の利用状況

① 図書館設備の現状

品名	数量	型式	購入年月日
ユニットカウンター	1	MARUZEN CO.LTD.	
角型閲覧テーブル	6		
丸型閲覧テーブル	2		
個人閲覧テーブル	2		
閲覧椅子	40	MARUZEN CO.LTD.	
スチールカードケース	2	MARUZEN	
木製カードケース(卓上)	6	MARUZEN CO.LTD.	
新聞閲覧台	1	MARUZEN CO.LTD.	
新聞架	1	MARUZEN CO.LTD.	
書架型木製雑誌架	3	MARUZEN	
スチール製雑誌架	1	MARUZEN	
3人用普通ロッカー	1	UCHIDA	H4
9人用普通ロッカー	4		H6・4・6
ブックトラック	1	MARUZEN CO.LTD.	
グリーンボード	1	UCHIDA	
案内板	2	中央黒板・ピンレスボード	
扉付戸棚	4		
書架(90x180)	110		
書架用棚板(18x90)	50	MARUZEN	H12・3・13
スチール書架	30 6		H15・2・7
可動書架(手動)	5	丸善 コンパックル	
事務用デスク	3	UCHIDA	S64・3・31
冷暖房機	1		
コンピュータ	2	FUJITSU-FMV-6900ML8C	H14・1・8
スキャナー	1	EPSON-ES-6000HS	H14・1・8
プリンター	1	EPSON LP-8700	H14・1・8

② 開館日数・貸出日数

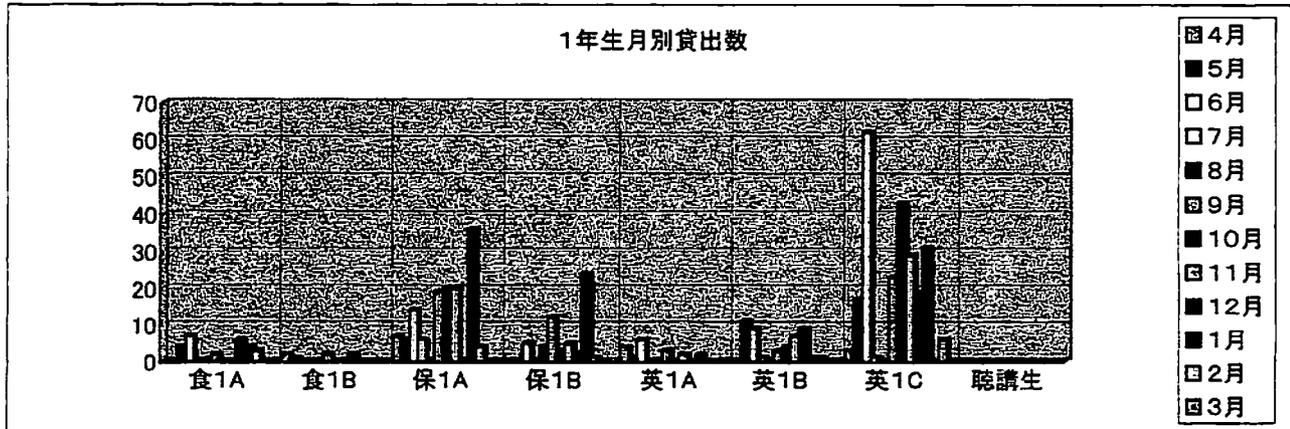
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
休館	5	7	5	4	7	7	5	6	6	6	5	6	69
貸出日数	25	24	25	27	24	23	26	24	25	25	23	25	296
臨時閉館	0	0	0	0	0	0	1	1	4	3	16	1	26
開館	25	24	25	27	24	23	25	23	21	22	7	24	270

(閉館理由)

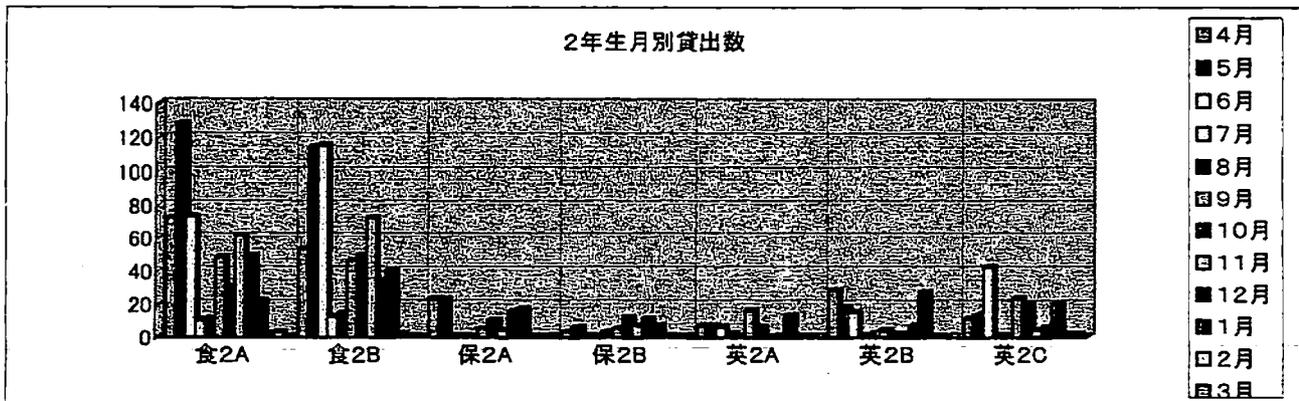
- ・ 学園祭の代休のため(10/28)
- ・ 佐世保祭参加の代休のため(11/5)
- ・ 茶道大会の代休のため(12/9)
- ・ 年末年始のため(12/28 ~ 1/4)
- ・ 蔵書点検のため(2/10 ~ 2/28)
- ・ 卒業式のため(3/15)

③ 14年度 貸出数

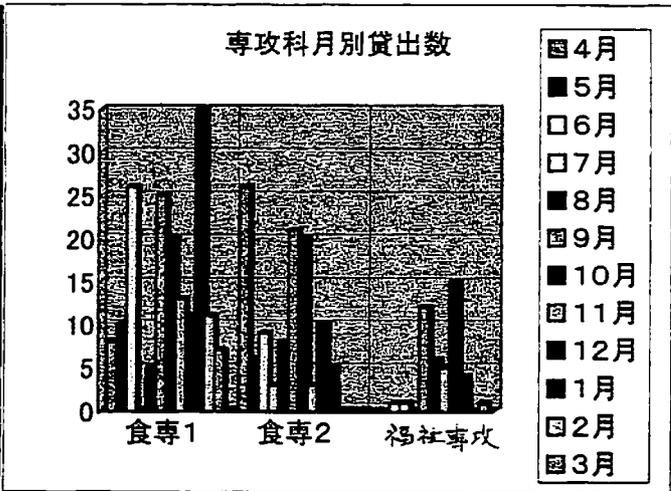
	食1A	食1B	保1A	保1B	英1A	英1B	英1C	聴講生	1年貸出
4月	0	2	7	0	4	0	3	0	16
5月	4	1	6	0	1	11	17	0	40
6月	7	0	14	5	6	9	62	0	103
7月	0	0	6	0	0	1	1	0	8
8月	0	0	0	4	0	0	0	0	4
9月	2	2	19	12	3	3	23	0	64
10月	0	0	20	3	0	4	43	0	70
11月	0	0	20	5	2	7	29	0	63
12月	6	2	0	2	0	9	19	0	38
1月	4	0	36	24	2	1	31	0	98
2月	3	0	4	1	0	1	0	0	9
3月	0	0	0	0	0	0	6	0	6
貸出総数	26	7	132	56	18	46	234	0	519



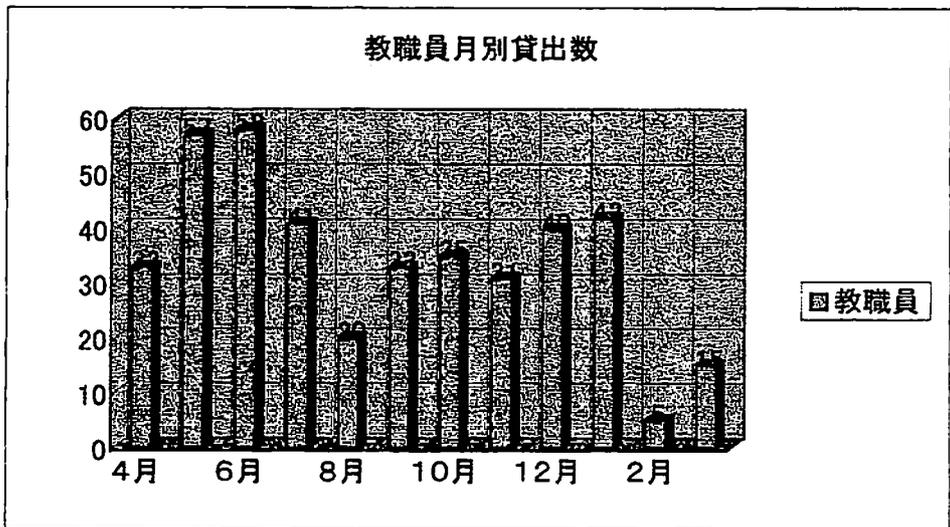
	食2A	食2B	保2A	保2B	英2A	英2B	英2C	聴講生	2年貸出
4月	72	53	23	3	7	28	11	0	197
5月	128	114	23	6	7	18	13	4	313
6月	73	115	1	1	6	15	42	0	253
7月	10	12	0	0	2	1	1	0	26
8月	11	14	0	3	0	2	1	0	31
9月	48	46	5	5	16	4	23	0	147
10月	30	49	10	12	6	2	20	0	129
11月	61	72	4	7	0	2	4	0	150
12月	49	34	15	11	0	7	6	0	122
1月	22	40	17	7	13	27	20	0	146
2月	2	2	0	1	0	0	2	0	7
3月	3	0	0	0	0	0	2	0	5
貸出総数	509	551	98	56	57	106	145	4	1526



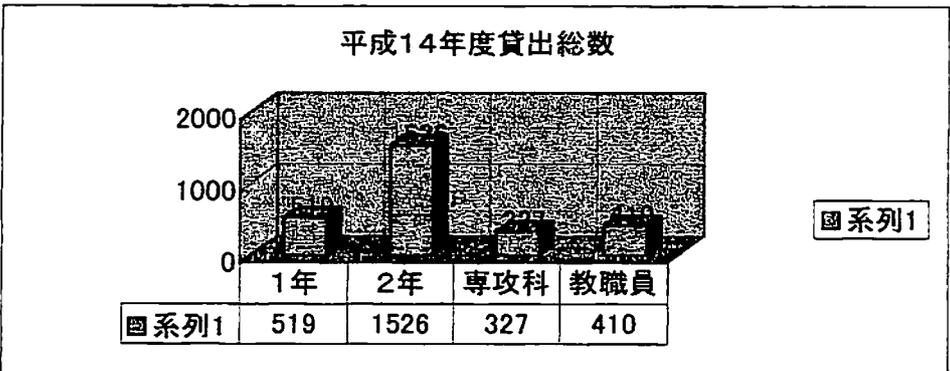
	食専1	食専2	福祉専攻	専攻科計
4月	8	26	0	34
5月	10	6	0	16
6月	26	9	1	36
7月	0	3	1	4
8月	5	8	0	13
9月	25	21	12	58
10月	20	20	6	46
11月	13	3	5	21
12月	11	10	15	36
1月	35	5	4	44
2月	11	0	0	11
3月	7	0	1	8
貸出総数	171	111	45	327



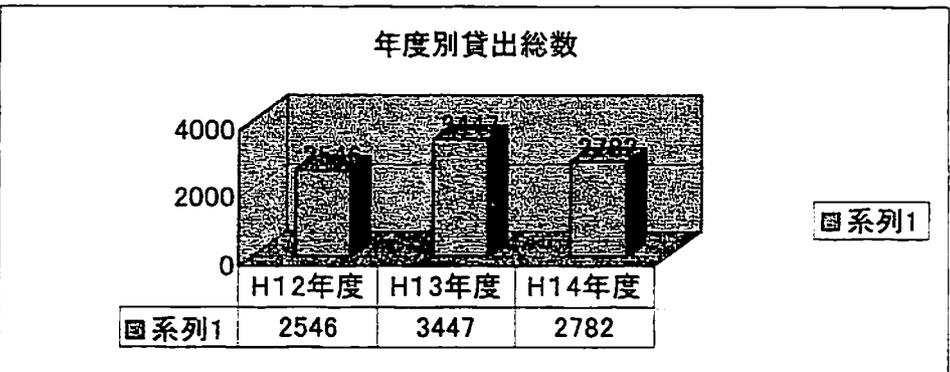
	教職員
4月	33
5月	57
6月	58
7月	41
8月	20
9月	33
10月	35
11月	31
12月	40
1月	42
2月	5
3月	15
貸出総数	410



平成14年度貸出数	
1年	519
2年	1526
専攻科	327
教職員	410
総合計	2782



年間貸出総数	
H12年度	2546
H13年度	3447
H14年度	2782



2. 図書館の運営状況

①図書館運営の年間スケジュール計画表

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーション資料作成 ・図書館便り作成・標示 ・図書館作業計画表作成 ・図書費の確認と予算案作成 ・4月末利用統計 	10 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・次年度購読雑誌の検討・洋書更新手続き ・第3期購入希望図書リスト用紙配布 ・10月末利用統計
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期購入希望図書リスト用紙配布 ・第1期図書購入計画 ・第1期購入図書発注 ・5月末利用統計 	11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期図書購入計画 ・第3期購入図書発注 ・次年度購読雑誌更新手続き [和書] ・11月末利用統計
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・督促状作成・配布 ・6月末利用統計 	12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・督促状作成・配布 ・図書館大掃除 ・12月末利用統計
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期購入図書整理 ・データ入力作業 ・第2期購入希望図書リスト用紙配布 ・7月末利用統計 	1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・1月末利用統計
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・データ入力作業 ・8月末利用統計 ・図書館大掃除 	2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・督促状作成・標示 ・2月末利用統計 ・蔵書点検
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館便り作成・標示 ・第2期図書購入計画 ・第2期購入図書発注 ・9月末利用統計 	3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・3月末利用統計 ・年度末利用統計 ・決算報告書作成 ・紀要発送作業 ・平成14年度報告書作成

② 図書館運営報告

	図書館作業内容	図書館会議	図書館便り	対外的事柄
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・H13 図書館データ年度末処理 ・H13 自己点検報告書提出 ・H13 受入図書リスト作成 ・H13 不明図書一覧作成、配布 ・食物科紛失図書再発注 ・除籍処理リスト作成 (本部へ) ・図書館利用オリエンテーション ・紀要送付先リスト作成 ・H14 ファイル見出し作成 ・H14 購入雑誌一覧表作成掲示 ・H14 図書館作業計画案作成 ・4月の貸出統計 ・利用図書上位100作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成14年度 購入雑誌一覧表 (作成・掲示) ・連休に伴う貸出 延長について (4/22-5/7) ・紛失図書一覧作成 配布 (教職員各位) 	<ul style="list-style-type: none"> ・紀要発送作業 (278校宛) 本部へ <ul style="list-style-type: none"> ・H13 決算報告書 ・年度別 受入統計 ・年度別 蔵書統計 ・紛失図書一覧 ・除籍処理リスト
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・洋書棚整理 ・H13 受入紀要目次一覧作成 ・第1期購入希望図書リスト一覧作成 ・追録差し替え作業 ・第1期購入希望図書データ入力作業 ・5月の貸出統計 ・利用図書上位100作成 	24) 第1回図書館会議 <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年度 図書館運営報告 ・平成14年度 運営計画について ・第1期図書購入計画 (選書まで) 		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会館員 名簿 (協議会宛) ・大学図書館調査票 (日本図書館協会宛) ・大学構成調査票 (日本図書館協会宛)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・新着図書受入作業 ・新着図書データ入力作業 ・食物科改組後の図書選書 (食物科へ依頼) ・紀要、雑誌移動 (リズム室前倉庫へ) ・倉庫内整理 ・図書館夏休み前大掃除 ・6月の貸出統計 ・利用図書上位100作成 	28) 第2回図書館会議 <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県大学図書館 協議会総会について (報告) ・夏期休暇中の図書館 運営について (開館時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期休暇にともなう 長期貸出について (6/24-9/2) ・夏期休暇中の 開館時間 (9:00-15:00) ・遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期購入図書 発注 (育文堂へ) ・長崎県大学図書館 協議会総会参加 (長崎国際大学) ・第1期購入図書発注 (丸善へ)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学術雑誌製本分発注 (丸善へ) ・新着図書受入作業 (1期分) ・新着図書データ入力作業 ・新着図書配架 ・洋書棚整理 ・7月貸出統計 ・利用図書上位100作成 		<ul style="list-style-type: none"> ・図書館配置図作成 ・倉庫資料配置図作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館内倉庫整理、移動 ・追録差し替え作業 ・パソコン6台設置 (検索専用) ・8月貸出統計 ・利用図書上位100作成 			<ul style="list-style-type: none"> ・Book web pro 利用申込み
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・新着図書データ入力作業 ・学術雑誌製本分受入作業 ・図書館大掃除 ・9月貸出統計 ・利用図書上位100作成 	27) 第3回図書館会議 <ul style="list-style-type: none"> ・第2期図書購入計画 (選書まで) ・平成15年度分 受入雑誌について (追加、休刊の検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期試験前一週間 利用時間延長 (9/5-9/11) (8:30-18:00) ・図書館倉庫配架図作成 ・年間開館時間帯一覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県大学図書館 協議会見学会 (長崎国際大学) (米軍図書館) ・第2期購入図書 発注 (育文堂へ)

	図書館作業内容	図書館会議	図書館便り	対外的事柄
10月	<ul style="list-style-type: none"> 第2期購入希望図書リスト一覧作成 第2期購入希望図書データ入力作業 追録差し替え作業 追録受入作業 10月の貸出統計 利用図書上位100作成 	22) 第4回図書館会議 ・平成15年度分 受入雑誌決定	<ul style="list-style-type: none"> 行事による休講に伴う臨時休館日 (10/28・11/4,5・12/9) 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県大学図書館協議会研修会 (長崎大学附属図書館) 平成14年度洋雑誌継続、更新手続き (丸善へ)
11月	<ul style="list-style-type: none"> 新着図書チェック、受入作業 第2期購入図書データ入力作業 11月の貸出統計 利用図書上位100作成 			<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度和雑誌継続、更新手続き (丸善へ)
12月	<ul style="list-style-type: none"> 図書館大掃除 第3期購入希望図書リスト一覧作成 第3期購入希望図書データ入力作業 12月の貸出統計 利用図書上位100作成 		<ul style="list-style-type: none"> 遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼) 冬期休暇にともなう 長期貸出について (12/14-1/6) 冬期休暇中の 開館時間(9:00-15:00) 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県大学図書館協議会研修会 (長崎国際大学図書館) 第3期購入図書発注(育文堂へ)
1月	<ul style="list-style-type: none"> 新着図書チェック、受入作業 寄贈図書受入作業 1月の貸出統計 利用図書上位100作成 		<ul style="list-style-type: none"> 後期試験前一週間 開館時間延長(1/20-27) (8:30-18:00) 蔵書点検日のお知らせ (2/12-2/28) 遅延図書返却請求 (クラスアドバイザーへ依頼) 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> 新着図書受入作業 第3期購入図書データ入力作業 閉館して蔵書点検作業(2/12-2/28) 不明図書チェック 雑誌棚整理⇒倉庫へ 書棚板30枚はめ込む 書架移動 2月の貸出統計 利用図書上位100作成 		<ul style="list-style-type: none"> 春期休暇にともなう 長期貸出について (3/10-4/10) 卒業予定者への 貸出終了日(2/10) 春期休暇中の開館 時間(9:00-15:00) 不明図書一覧配布 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎県大学図書館協議会講演会欠席 (長崎大学付属図書館)
3月	<ul style="list-style-type: none"> 図書移動 H15 オリエンテーション資料作成 3月の貸出統計 利用図書上位100作成 			
図書館作業(通年)				
<ul style="list-style-type: none"> 郵便物・雑誌・紀要・追録・新聞・寄贈図書・図書目録など随時受入作業 新聞のスクラップ(本学園関係分・図書館関係分) 図書原簿記入・データ入力・図書配架 新着図書・学術雑誌製本分受入作業 図書チェック・印押し・ナンバリング・分類・ラベル打ち・ラベル貼り 				<ul style="list-style-type: none"> 随時貸出返却作業 追録差替え作業 文献複写依頼に対応 随時返却図書配架
その他 図書館使用内容				
<ul style="list-style-type: none"> 教職員の朝会、英語科会議(毎週火曜日、金曜日) 行事前教職員打合せ(4/6・7/19・7/20・10/26・3/15) 朋友会関係会議(2/17・3/3・3/11・3/12・3/18) 茶道関係会議(4/1・4/3・4/4・7/15・7/19・8/26・9/20・10/31・1/7・1/9・1/21・2/6・3/20・3/25) 留学生へテレビ、雑誌取材(2/10,12・3/12) ロータクト年次大会(6/8・6/9) 図書館清掃:月曜日(保育学科2年) 				

③ 受入蔵書について

平成14年度 図書館 予算

学 科	予算額	雑誌費	図書費
食 物 科	600,000	250,000	350,000
保育学科	900,000	240,000	660,000
英 語 科	700,000	200,000	500,000
一般教養	500,000	60,000	440,000
計	2,700,000	750,000	1,950,000

平成14年度 図書費 決算 (学科別)

学 科	購入図書数	購入金額
食 物 科	89	236,593
保育学科	186	487,736
福祉専攻	79	232,353
英 語 科	113	236,926
一般教養	154	572,013
計	621	1,765,621

平成14年度 図書費 決算 (書店別)

書店名	購入図書数	購入金額
育文堂	553	1,414,653
丸 善	27	52,650
その他	20	242,980
紀伊国屋	10	23,938
大谷書店	11	31,400
合 計	621	1,765,621

平成14年度 雑誌費 決算 (学科別)

学 科	予算額	雑誌数	雑誌費
食 物 科	250,000	223	230,970
保育学科	240,000	135	144,274
(福祉)		81	82,454
英 語 科	200,000	219	181,279
(洋書)		6	16,558
一般教養	60,000	88	56,220
計	750,000	752	711,755

平成14年度 雑誌費 決算 (書店別)

	食物科	保育科	英語科	一般	雑誌数	雑誌費
予算額	250,000	240,000	200,000	60,000		750,000
育文堂	14,400	30,850	0	8,960	62	54,210
丸 善	161,670	195,878	197,837	7,440	588	562,825
金明堂	0	0	0	38,320	61	38,320
ニホンミック	54,900	0	0	0	38	54,900
県教育センター	0	0	0	1,500	3	1,500
合 計	230,970	226,728	197,837	56,220	752	711,755

平成14年度 購入雑誌一覧

受入種類	見積り額	受入冊数	雑誌費1	雑誌費2	雑誌費3	雑誌費4	雑誌費決算
栄養と料理	8,580	12	2,145	2,145	2,145	2,145	8,580
家庭科教育	8,400	9	2,100	2,100	2,100	0	6,300
学校給食	11,665	12	2,916	2,916	2,917	2,916	11,665
公衆衛生	28,199	12	7,050	7,050	7,050	7,050	28,200
公衆衛生情報	10,800	12	2,700	2,700	2,700	2,700	10,800
食生活	7,000	12	1,749	1,749	1,753	1,749	7,000
臨床栄養	17,556	14	4,389	4,389	4,389	4,686	17,853
こどもの栄養	9,840	12	2,460	2,460	2,460	2,460	9,840
食の科学	11,642	12	2,910	2,910	2,910	2,910	11,640
栄養学雑誌	6,030	6	1,506	1,506	1,506	0	4,518
食べ物文化	11,062	21	3,939	5,887	3,939	4,989	18,754
日本家政学会誌	15,120	12	3,780	3,780	3,780	3,780	15,120
食べ物通信	6,899	12	1,725	1,725	1,725	1,725	6,900
健康教育版	18,000	13	18,000	0	0	0	18,000
生活と科学版	18,000	13	18,000	0	0	0	18,000
環境とくらし	18,900	12	18,900	0	0	0	18,900
きょうの料理	5,760	12	5,760	0	0	0	5,760
教育と医学	8,640	12	8,640	0	0	0	8,640
製菓製パン	4,500	3				4,500	4,500
食物科関係	226,593	223	18,348	18,348	18,352	18,645	230,970

心理学研究	15,750	6	3,936	3,936	3,942	3,936	15,750
児童心理	14,759	18	3,690	3,690	3,690	3,690	14,760
美術手帖	19,200	12	4,800	4,800	4,800	4,800	19,200
音楽の友	12,663	12	3,040	3,040	3,040	3,290	12,410
現代と保育	2,520	0	0	0	0	0	0
女子体育	6,552	11	1,638	1,911	1,365	1,638	6,552
ダンスマガジン	21,199	16	6,000	6,000	6,000	6,000	24,000
発達	9,660	4	1,260	1,260	1,260	1,260	5,040
保育の研究	2,310	1	0	0	0	2,310	2,310
保育問題研究	5,919	5	1,399	1,560	1,399	780	5,138
幼児と保育	8,597	12	2,167	2,137	2,137	2,137	8,578
みんなのスポーツ	5,199	12	1,317	1,317	1,328	1,317	5,279
レクリエーション	4,725	11	1,993	1,049	1,521	944	5,507
芸術新潮	17,350	12	0	0	0	17,350	17,350
コーチングクリニック	2,400	3				2,400	2,400
保育科関係	148,803	135	31,240	30,700	30,482	51,852	144,274

月刊総合ケア	17,955	12	4,488	4,488	4,491	5,085	18,552
月刊福祉	12,234	12	3,057	3,057	3,057	3,057	12,228
社会福祉研究	5,600	3	2,100	2,100	2,100	0	6,300
介護福祉	4,127	4	1,083	1,083	1,085	1,083	4,334
ふれあいケア	12,240	12	3,060	3,060	3,060	3,060	12,240
生活と福祉	4,863	12	1,215	1,215	1,215	1,215	4,860
ケアマネジメント	10,440	12	2,610	2,610	2,610	2,610	10,440
おはよう21	13,500	14	0	0	0	13,500	13,500
福祉専攻科関係	80,959	81	17,613	17,613	17,618	29,610	82,454

English Express	9,601	12	2,400	2,400	2,401	2,400	9,601
言語研究	7,000	2	1,749	1,749	1,753	1,749	7,000
e とらんす	6,237	12	1,557	1,557	1,566	1,557	6,237
国際人流	8,495	12	2,010	2,010	2,010	2,010	8,040
English Journal	8,883	12	2,367	2,220	2,367	2,220	9,174
英語教育	9,235	13	2,400	2,400	3,900	2,400	11,100
英語青年	12,801	12	3,249	3,099	3,199	3,048	12,595
月刊言語	10,684	12	2,757	2,757	3,038	3,338	11,890
月刊ホテル・旅館	25,200	12	6,300	6,300	6,300	6,300	25,200

時事英語研究	9,099	12	2,260	2,220	2,269	2,269	9,018
日本語学	9,954	12	2,487	2,487	2,487	2,487	9,948
日本語ジャーナル	14,162	12	3,540	3,540	3,540	3,540	14,160
ひらがなタイムス	4,674	12	1,167	1,167	1,167	1,167	4,668
NHKラジオ韓国語講座	4,195	12	1,047	1,047	1,047	1,047	4,188
NHKテレビ韓国語講座	2,797	12	1,047	1,047	1,047	1,047	4,188
キッズ・コム	10,558	12	2,637	2,637	2,637	2,637	10,548
中国語ジャーナル	7,679	12	3,837	3,837	3,837	3,837	15,348
中国語会話	4,195	12	1,047	1,047	1,047	1,047	4,188
中国語講座	4,195	12	1,047	1,047	1,047	1,047	4,188
英語科関係	169,644	219	44,905	44,568	46,659	45,147	181,279

Foreign Affairs	16,558	6	16,558	0	0	0	16,558
英語科(洋書)	16,558	6	16,558	0	0	0	16,558

茶道雑誌	7,440	12	1,860	1,860	1,860	1,860	7,440
ロードショー	8,960	12	0	0	0	8,960	8,960
東洋経済	30,000	49	0	0	0	29,860	29,860
現代	8,460	12	0	0	0	8,460	8,460
教育ながさき	1,500	3				1,500	1,500
一般	56,360	88	1,860	1,860	1,860	50,640	56,220

追 録

追録名	号数	金額	追録名	号数	金額
児童福祉法令通達要覧 (新日本法規)	31	3,350	老人保健福祉法令解釈要 (新日本法規)	48	2,750
	32	3,400		49	3,200
	33	4,000		50	3,900
	34	3,200		51	3,750
	35	3,400		52	3,100
	36	3,500		53	3,250
	計	20,850		54	2,900
				55	2,850
			56	4,050	
			計	29,750	

栄養関係法規類集 (新日本法規)	133	4,000	教員免許ハンドブック (第一法規)	127-133	14,490
	134	3,850		134-135	4,820
	135	3,900		計	19,310
	136	3,000			
	137	3,350			
	138	3,300			
	139	3,250			
	140	3,000			
	計	27,650			
				平成14年度受入追録	合計

紀 要

平成14年度受入紀要	
大 学	208
短期大学	130
そ の 他	11
合 計	349

(2002.4.1~2003.3.31)

新 聞

長崎新聞	36,000
毎日新聞	36,084
英字新聞	46,800
福祉新聞	11,025 (H14/9~H15/3分)
計	129,909

集計開始年月日: 1965.04.01

集計終了年月日: 2002.03.31

▼

- 01-図書費
- 02-雑誌費
- 03-研究費
- 05-寄贈

再指定

集計開始

年月日は、YYYY. MM. DDの形式で入力して下さい。

合計冊数: 28363

合計金額: 61289156

0. 総記: 1. 哲学: 2. 歴史: 3. 社会: 4. 自然: 5. 技術: 6. 生活: 7. 芸術: 8. 言語: 9. 文学: 分類不明

冊数:	1330	1169	934	9135	3150	2475	489	2070	3766	3795	0
価格:	3821299	2102320	2398493	17116270	6909147	5309258	1073072	5686562	9458813	7413922	0

開じる

印刷

抽出したデータの一覧を印刷します。

平成13年度末 除籍処理後 歳書統計 (大学へ 1858冊・1996年受入分まで
不明図書 1045冊・未入荷1冊)

集計開始年月日: 2002.04.01

集計終了年月日: 2003.03.31

▼

- 01-図書費
- 05-寄贈

再指定

集計開始

年月日は、YYYY. MM. DDの形式で入力して下さい。

合計冊数: 774

合計金額: 2163979

0. 総記: 1. 哲学: 2. 歴史: 3. 社会: 4. 自然: 5. 技術: 6. 生活: 7. 芸術: 8. 言語: 9. 文学: 分類不明

冊数:	0	51	33	250	62	83	18	111	100	66	0
価格:	0	183503	99894	695908	161946	212472	62680	382603	247928	117045	0

開じる

印刷

抽出したデータの一覧を印刷します。

平成14年度 受入図書

集計開始年月日: 1965.04.01

集計終了年月日: 2003.03.31

▼

- 00-費目不明
- 01-図書費
- 02-雑誌費
- 03-研究費
- 05-寄贈

再指定

集計開始

年月日は、YYYY. MM. DDの形式で入力して下さい。

合計冊数: 29137

合計金額: 63453135

0. 総記: 1. 哲学: 2. 歴史: 3. 社会: 4. 自然: 5. 技術: 6. 生活: 7. 芸術: 8. 言語: 9. 文学: 分類不明

冊数:	1330	1220	967	9385	3212	2558	507	2181	3866	3861	0
価格:	3821299	2285823	2498387	17812178	7071093	5521730	1135752	6069165	9706741	7530967	0

開じる

印刷

抽出したデータの一覧を印刷します。

図書館の運営報告と反省・今後の課題

① 運営状況

図書館の運営については、年間スケジュールに従い進んできたが、前期は、例年にないことも行った。

昨年の3月下旬に実施した蔵書点検で13年度に購入したばかりの図書が約80冊もカウンターを通らず図書館外に持ち出されている事がわかりショックを受け、4月に入り盗難防止のため、出入り口を半分にしたり、大型鏡を置いた。また、バック類の館内持込みを禁止を徹底し、カウンターで学生証でロッカーの鍵を貸し出し、必ず荷物はロッカーに入れてもらうようにした。ここ数年の蔵書点検の結果、毎年不明図書になっていた分で1996年度購入分までの1000冊と国際大学へ移行した食物栄養関係の図書1858冊はコンピュータの中で除籍処理を行い、除籍図書リストを作成し、除籍処理後、受入年度別に蔵書統計を出した。

5月には全国の大学や短大から送られてきている紀要の目次の一覧を作成し置いているが、利用者が少ないように思う。

本棚が手狭になっていたが、6月にリズム室前に倉庫が完成し、紀要と雑誌のバックナンバーを移動させ、紀要は大学名の五十音順に、雑誌は学科別に配架している。倉庫の鍵はカウンターにあるので、利用していただきたい。

7月に入り、雑誌棚を移動させ、一か所に集め利用しやすくしたり、洋書棚を整理し、棚を増やせるスペースを確保した。

8月には、検索専用だがインターネット接続のパソコン6台が設置された。

9月より、図書館にパートの坂本さんが来てくれるようになりとても助かっている。

② 蔵書入力について

今年度も図書購入は、3期に分けて行い、受け入れた順に原簿を作成し、データも入力を済ませている。

③ 蔵書点検について

蔵書点検は、昨年の方があり、卒業式前に点検を済ませたく、後期試験直後に行ったので今年度は、ゼミ発表など学生に迷惑をかけたと思う。図書館を閉館し貸出も停止するので、遅延図書の返却ではクラスアドバイザーの先生方には、学生への連絡など随分お手数をお掛けした。約3万冊の中で今年度不明だった図書は8冊で、昨年にと比べると10分の1に激減していたが、カウンターを通らずに持ち出されている図書もまだ8冊あった。学生のマナーは随分良くなったと思うので、今後も様子を見ていきたい。

平成 14 年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	事務組織 大学における事務組織				
<p>現 状 本部事務とは学校法人のことで大学事務局とは次のように機能分類している。</p> <table border="0"> <tr> <td> 学校法人 事務局 総務に関する事務 会計に関する事務 管財に関する事務 </td> <td> 庶務 人事 秘書 文書 経理 会計 財産管理 </td> </tr> <tr> <td> 大学事務局 総務に関する事務 大学全般に係わる運営事務 </td> <td> 文書管理 秘書 </td> </tr> </table> <p>短期大学の事務と高等学校、幼稚園、調理師専修学校、歯科衛生士学院を含んだ業務が、法人事務局の分野となる。 短期大学事務局における事務組織は、平成14年度組織及び分掌事務から見ると下記の体系からなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 総 括・・・短期大学全体の総括 庶務係・・・庶務・人事・服務・給与・福利厚生 会計係・・・収入・支出会計 管財係・・・施設設備の整備・公用車・環境美化 学生係・・・庶務・入学試験・学生部長補助事務 教務係・・・庶務 図書係・・・図書 就職係・・・就職 保健係・・・保健 <p>改善点 全面的に事務局の係わる業務は多種多様である。大学事務の業務量は年間を通して均一化しているわけではなく、年に数回、異常に煩雑になる時期がある。学年はじめ白蝶祭、入学試験等々である。従って、どの時点の業務量にあわせた人員配置をするかが問題である。これとは別に、施設の維持管理についても、事務局には欠くことのできない業務の一つでもある。 また、学生サービスの面で受付業務の時間帯、対応などについては事務局の都合による制約は、少なくして学生から頼られるサービスを考慮して運営にあたらなければならない。 又、法人事務局と意思の疎通を図り、連携を密にして効率的な事務処理を行う必要がある。</p>		学校法人 事務局 総務に関する事務 会計に関する事務 管財に関する事務	庶務 人事 秘書 文書 経理 会計 財産管理	大学事務局 総務に関する事務 大学全般に係わる運営事務	文書管理 秘書
学校法人 事務局 総務に関する事務 会計に関する事務 管財に関する事務	庶務 人事 秘書 文書 経理 会計 財産管理				
大学事務局 総務に関する事務 大学全般に係わる運営事務	文書管理 秘書				

平成14年度自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教員の構成 教員人事の長期計画
<p>【現 状】</p> <p>短期大学設置基準（厚生省基準） 学級数 科目内容 財政状況</p> <p>以上の要因を勘案して、体系的な長期計画案を法人事務局において作成し、理事会において、これを承認する。 又、教員の年齢構成も若手、中堅、老練のバランスを保つことが、教育の充実、向上に必要である。</p> <p>【改善策】</p> <p>教育の質の向上においては、施設設備の充実だけでなく、教員の質の向上・教員数の増加が考えられるが、人件費の増加は財政状態に大きく係わるものであり、学生数減少の時だけに、綿密な計画を立てる必要がある。</p>	

平成 1 4 年度 自己点検 - 評価報告書

自己点検 評価項目	教員の構成 採用, 昇任の手続きと基準
<p>現状</p> <p>採用については, その都度人事委員会において, 教員選考規定に基づき人事会議を行い基本採用計画案を作成, それを理事会において審議, 承認後具体的にリクルート, 面接試験の上, 採用を決定する。</p> <p>昇任手続きと基準については, 基本的には, 教員選考規定にのっとり学校法事務局において昇任案を作成し, これを学長が承認し, 決定する。</p> <p>改善策</p> <p>教員選考規定が昭和 4 7 年 4 月 1 日に作成されたもので, 規定の見直しを検討する必要がある。</p> <p>昇任には, 経験年数だけでなく, 教員の資質, 指導力も重要でこれをどう評価し, 昇任昇任させていくか, 公平で慎重な審議を要する。</p>	

平成14年度 自己点検・自己評価報告書

自己点検 評価項目	教員の構成 教員の兼職状況と認可の方針									
<p>【現状】</p> <p>他の学校法人・国公立大学等兼務者（非常勤教員の部）</p> <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">食物科</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>幼児教育学科</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> <tr> <td>英語科</td> <td style="text-align: center;">2</td> <td style="text-align: center;">人</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 20px;">認可の方針としては、教員兼職の要請があった場合本学運営において支障がないと認められる場合に学長がこれを承認する。</p> <p>【改善策】</p> <p>他の学校法人・国公立の大学を兼務することにより、兼務校の教育研究活動 学生生活等の状況が把握することができ、教員の情報交換もでき、教育指導面 有益であるが、学科内教員の理解と協力が必要である。</p>		食物科	2	人	幼児教育学科	4	人	英語科	2	人
食物科	2	人								
幼児教育学科	4	人								
英語科	2	人								

平成14年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	研究活動 研究費の額と配分状況				
現 状					
<p>本学の一人当たりの年間研究費及び使用状況は次のとおりである。</p>					
	1人当研究費	誌数	研究費総額	冊数	使用総額
教 授	300,000	17	5,100,000	9	1,512,766
助教授	250,000	7	1,750,000	7	1,516,693
講 師	200,000	13	2,600,000	10	1,496,493
助 手	100,000	4	400,000	1	21,707
<p> 使用者の割合は63%である。 使用額の割合は46%である。 使途の内容については、学会費が12%、研究費等が69%であり、その他が19%である。 </p>					
改 善 策					
<p> 研究費の有効な配分としては、年度当初に、研究目的をはっきりさせ、そのための所要額を申請してもらいそれをもとにして予算配分を行う方が有効に利用できる。短大として教育研究活動をどの程度の割合で考えるかが、課題である。 </p>					

平成14年度 自己点検・評価報告書

自己点検 評価項目	研究活動 研究誌の発行状況と編集方針	
現 状		
紀要の執筆者		
第1号	56年12月	安部直樹 前田浩志 榎田貴美子 光義 貢
第2号	57年12月	中野伸彦 安部恵美子 田坂弘子
第3号	58年12月	中野伸彦 松永妙子 田坂弘子
第4号	59年12月	大宮直樹 高橋晃清 中島三雄 村尾秀雄 八木和人
第5号	5年 3月	安部芳樹 安部恵美子 西津健二郎 八木和人 古賀陽子 西岡和子 中坪史典 中野明人
第6号	6年 3月	安部芳樹 前田 稔 嶋内麻佐子 川久保伸 田中 誠 白川佳子 ローレンジャパイロ
第7号	7年 3月	前田 稔 古賀陽子 川久保伸一 田中 誠 白川佳子 中坪史典 好川 正 橋本俊二郎 新藤照夫 野口七郎 石田敬子
第8号	8年 3月	宮口尹男 前田 稔 中野明人 田中 誠 牟田美信 山中理江 西村栄恵
第9号	9年 3月	安部直樹 安部恵美子 前田稔 永石 直 山崎久子 嶋内麻佐子 田中 誠 中野明人 牟田美信 北川誠一郎 白川佳子 西村栄恵 尾場 均
第10号	10年 3月	安部直樹 原 耕平 谷脇氏子 永石 直 山崎久子 嶋内麻佐 田中 誠 中野明人 牟田美信 北川誠一郎 白川佳子 尾場 均
第11号	11年 3月	安部直樹 安部恵美子 原 耕平 宮口尹男 高橋信幸 山崎久子 嶋内麻佐 田中 誠 中野明人 牟田美信 北川誠一郎 山中理江
第12号	12年 3月	原 耕平 宮口尹男 高橋信幸 安部恵美子 坂本雅俊 田中 誠 中野明人 陣内 敦 北川誠一郎 山中理江 原 暎子 西村栄恵 有吉恵子 西森珠貴 山口美穂 陳 健
第13号	13年 3月	原 耕平 宮口尹男 谷脇氏子 安部恵美子 陣内 淳 好川 正 中野明人 北川誠一郎 牟田美信 山中理江 原 暎子 西村栄恵 豊村洋子 山口美穂 筒井裕子 陳 健
第14号	14年 3月	安部直樹 宮口尹男 西村栄恵 安部恵美子 陣内 敦 山中理江 牟田美信 山口美穂
第15号	15年 3月	安部直樹 宮口尹男 原 耕平 安部恵美子 白川 敦 山中理江 牟田美信 山口美穂 美穂
<p>現状としては、紀要編集委員会において、教員の使命・紀要発行の意義を明確にし、発行後は反省、活動報告を行っている。</p> <p>年1回発行し、昭和60年から平成4年迄の間、未発行であるが、その後毎年発行している。</p>		
改善策		
<p>教員の活動を活発にし、促進するためには、教員自らが、自己点検・評価にもとずき教育研究活動を行う必要があり、大学としても、その教育研究活動の研究成果を定期に且つ平等に公表する機会を与え、それを評価する必要がある。</p>		

施設の状況

敷地面積

校舎・体育施設	22,243㎡
屋外運動場敷地	4,410㎡
その他	18,117㎡
合 計	44,770㎡

建物面積

講義室	2,835㎡
実験室・実習室	1,224㎡
研究室	626㎡
図書室	190㎡
管理関係	3,103㎡
体育施設	1,641㎡
合 計	9,619㎡

配置図 平面図

長崎短期大学

自己点検・評価委員会規定

- 第1条 長崎短期大学は、短期大学設置基準第2条の規定に基づき、理事会の下に「自己点検・評価委員会」を設置する。
- 第2条 「自己点検・評価委員会」は、長崎短期大学の教育水準の向上を図り、その設置目的及び社会的使命を達成するために、自己点検・評価の作業を総轄する。
- 第3条 「自己点検・評価委員会」は、次のことを行う。
- 1) 自己点検・評価の項目の設定
 - 2) 自己点検・評価の実施計画の策定
 - 3) 自己点検・評価の分析
 - 4) 自己点検・評価の結果に基づく改善措置の提言
 - 5) 自己点検・評価の理事会への報告
- 第4条 「自己点検・評価委員会」は、長崎短期大学自己点検・評価委員会名簿によって構成する。
- 第5条 「自己点検・評価委員会」は、設定した項目の点検・評価の作業を実施するため、短期大学・法人部門との合同専門部会を設ける。
短期大学の専門部会の構成は、学長がこれを定める。
- 第6条 専門部会は次のことを行う。
- 1) 自己点検・評価についての教職員への周知
 - 2) 自己点検・評価の作業の実施
 - 3) 自己点検・評価の結果の「自己点検・評価委員会」への報告
- 第7条 理事会は、「自己点検・評価委員会」の報告に基づきその状況を公表するものとする。
- 第7条 委員会構成員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。